

文部科学省 令和6年度「高等専修学校における多様な学びを保障する先導的研究事業」

## 地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築

# 事業報告書

学校法人KBC学園 KBC高等学院

令和7年2月

本報告書は、文部科学省高等専修学校における多様な学びを保障する先導的研究事業による委託事業として、学校法人KBC学園KBC高等学院が実施した、令和6年度「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築」の成果をとりまとめたものです。

# 目次

<b>第1章 事業概要</b> .....	1
1. 事業の趣旨・目的 .....	1
2. 取組の実施体制 .....	1
3. 学習ターゲット、目指すべき成果 .....	2
4. 当該モデルが必要な背景について .....	2
5. 開発するモデルの概要 .....	4
1) 事業実施体制の構築 .....	4
2) 認知度向上のための広報周知活動強化 .....	5
3) 生徒の個性の寄り添った職場見学・インターンシップの実施体制を構築 .....	5
4) セーフティネット機能充実のための相談支援モデルを構築 .....	6
6. 計画の全体像 .....	7
7. 今年度の具体的活動 .....	10
1) スケジュール .....	10
2) 事業実施体制の構築 .....	10
8. 事業を実施する上で設置する会議 .....	10
9. 事業を実施する上で必要な調査 .....	12
<b>第2章 今年度の活動報告</b> .....	15
<b>第1部:アンケート調査</b> .....	15
1. 趣旨・目的 .....	15

2. アンケート調査概要 .....	15
1) アンケート調査概要 .....	15
2) 高等専修学校生徒向けアンケート .....	15
3) 沖縄県内中学校アンケート .....	16
3. 高等専修学校生徒向けアンケート .....	16
4. 沖縄県内中学校アンケート .....	35
5. アンケート調査分析 .....	48
1) 高等専修学校生徒向けアンケート分析 .....	48
2) 沖縄県内中学校アンケート分析 .....	48
3) アンケート結果から見える課題とその解決策 .....	49
<b>第2部:ヒアリング調査 .....</b>	<b>51</b>
1. 趣旨・目的 .....	51
2. ヒアリング調査概要 .....	51
1) ヒアリング調査概要 .....	51
2) 高等専修学校教員ヒアリング .....	51
3) インターンシップ受入れ企業・団体ヒアリング .....	52
3. 高等専修学校教員ヒアリング .....	53
1) 学校法人KBC学園 KBC高等学院 .....	53
2) 学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校 .....	55
4. インターンシップ受け入れ企業・団体ヒアリング .....	57
1) エーススポーツクラブ .....	57
2) 有限会社 スポーツグチ .....	59

3) 株式会社モビイクス .....	61
4) めぐみの森保育園 .....	64
5) カワサキプラザ那覇 .....	66
6) 一般社団法人ツナグミライ .....	68
7) 沖縄こどもの国 .....	70
8) 防衛省 自衛隊 .....	72
9) ヒアリングシートで回答いただいた企業・団体 .....	74
<b>5. ヒアリング調査分析 .....</b>	<b>77</b>
1) 高等専修学校教員ヒアリング分析 .....	77
2) インターンシップ受け入れ企業・団体ヒアリング分析 .....	78
3) ヒアリング結果が示す課題と改善の方向性 .....	79

## **付録：資料 .....** 81

<b>1. アンケート調査票 .....</b>	<b>81</b>
1) 高等専修学校生徒向けアンケート .....	81
2) 沖縄県内中学校アンケート .....	86
<b>2. モデル検討委員会議事録 .....</b>	<b>91</b>
1) 第1回モデル検討委員会議事録 .....	91
2) 第2回モデル検討委員会議事録 .....	99



# 第1章 事業概要

## 1. 事業の趣旨・目的

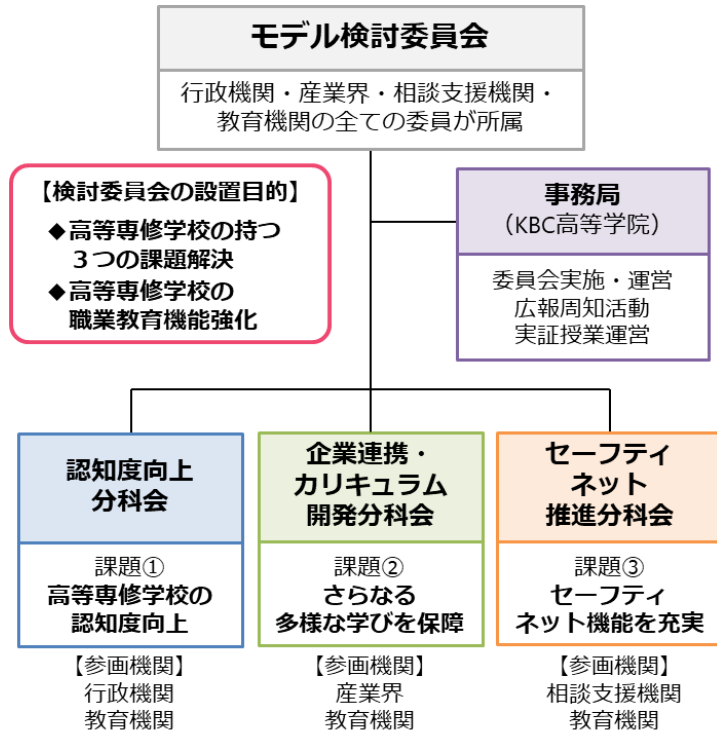
高等専修学校には認知度向上、さらなる多様な学びの保障、セーフティネット機能の充実という3つの課題がある。令和3年度の調査では、中学校教員の29%が高等専修学校を良く知っていると答え、13%が生徒・保護者に説明できると答えた。認知度向上には、中学校教員や適応指導教室等への的確な情報提供が必要となる。また、高校を中退した生徒への情報提供も重要である。

次に、高等専修学校は職業教育を重視しており、職場見学やインターンシップの実施が必要である。令和4年度の調査では、86校中21校が「インターンシップへの取り組み」を今後進めたいと回答している。本事業では当学園グループが持つ産業界との連携を活かし、生徒の個性の寄り添った職場見学やインターンシップを推進する。

さらに、高等専修学校には不登校や中退を経験した生徒のためのセーフティネット機能が求められる。少人数クラスや学習環境の配慮が行われているが、専門家の指導を受け、教員の対応力及び生徒へのアプローチ力向上が求められる。

課題解決のために、行政機関、産業界、相談支援機関、教育機関が参画する検討委員会及び分科会を設立し、モデルカリキュラム開発、実証授業開催、広報・普及啓発に注力する。

## 2. 取組の実施体制



### 3. 学習ターゲット、目指すべき成果

#### 【学習ターゲット】

- 高等専修学校生徒（職場見学・インターンシップ）
- 高等専修学校教員（教員向け研修）

#### 【目指すべき成果】

- ① 高等専修学校の認知度向上 ② 職場見学・インターンシップ実施による多様な学びを保障 ③ 教員の対応力・アプローチ力向上

### 4. 当該モデルが必要な背景について

#### ■ 高等専修学校の課題

##### 【課題1】認知度向上の必要性

令和3年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」（令和3年度文部科学省委託事業）に、「高等専修学校」について「良く知っている」と回答した中学校教員は29%、生徒・保護者に説明が「できる」と回答した中学校教員は13%にとどまった、と記載されており、高等専修学校の「社会的認知度」については十分とは言えない。

自らの進路を決定する中学生やその保護者、進路選択をサポートする中学校教員が高等専修学校の特徴を知り、理解を深めてもらい、進路選択肢として認知してもらうことが重要である。

認知度向上には進路選択をサポートする中学校教員や進路指導の教員、適応指導教室やフリースクール等の教員に的確な情報が届き、そこから中学生本人やその保護者に伝わっていかねばならない。また、高等学校を中退した生徒が高等専修学校へ入学するケースもあるため、高等学校教員への情報提供も必要である。

##### 【課題2】さらなる多様な学びを保障

高等専修学校は職業教育を重視している。そのため、普通科目に加え、専門科目の実習・実技の授業が多いことが最大の特徴である。

当校のデジタルクリエイションコースでも午前の授業は普通科目、午後の授業は興味のある分野をより深く学ぶスタイルで、制作展や企画などは異学年混成で活動を行っている。また、2015年にゲーム部を発足し、eスポーツにも積極的に取り組んでいる。

#### ◆ 当校のカリキュラム

	月	火	水	木	金	
	9:00-9:10	ショートホームルーム				
1	9:20-10:10	LHR	保健・体育	公共	英語コミュニケーション	現代の国語
2	10:20-11:10	数学Ⅰ	科学と人間生活	科学と人間生活	現代の国語	【新設科目】 デジタル マーケティング
3	11:20-12:10	英語コミュニケーション	歴史総合	総合的な探求の時間A	数学Ⅰ	
	12:20-13:10	清掃・昼食				
4	13:20-14:10	ゲーム制作	デジタル演習	デザイン・ イラスト演習	アルゴリズムと プログラム	eスポーツ練習 課題制作 検定試験対策
5	14:20-15:10		コンピュータ概論			
6	15:20-16:10					

※ 黄色い背景は普通科目(未来高等学校のカリキュラム)



当校でさらに多様な学びを保障するために今後、注力したいことは「学び」と「職業」を結びつけることである。「学び」と「職業」を結びつけるためには職場見学やインターンシップが効果的である。職場見学やインターンシップを積極的に行っていくことは、高等専修学校に求められる職業教育機能強化にも繋がる。

なお、令和4年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」(令和4年度文部科学省委託事業)によると、「現在は十分に組み合わせていないが、今後取り組みを進めたいと考える内容を選択(複数回答可)」という問いに対して、回答数 86 校のうち 21 校(24.1%) が「インターンシップへの取り組み」と回答しており、全国的な調査でも同様の意見が見られる。

沖縄県内で 6 校 19 学科を有する専門学校を展開する当学園グループでは実践的な職業教育、専門的な技術教育を行う教育機関として、多岐にわたる分野でスペシャリストを育成している。専門学校運営で培ったスペシャリスト育成のための産業界との連携ノウハウを高等専修学校でも活かし、職場見学・インターンシップを推進していく。

### 【課題3】セーフティネットとしての機能を充実

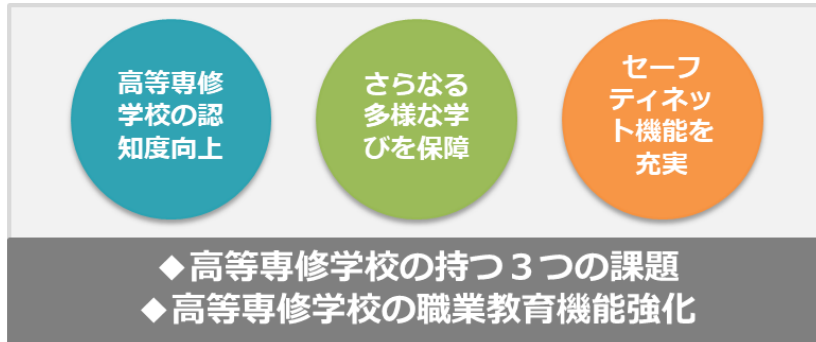
高等専修学校は、不登校や中退を経験した生徒のためのセーフティネットとして機能している。小・中学生時代に不登校を経験した生徒も学校生活をリスタートできるよう、さまざまな配慮を行っている。

令和4年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」(令和4年度文部科学省委託事業)によると、「現在、現在取り組んでいる内容を選択(複数回答可)」という問いに対して、回答数 86 校のうち、54 校(62.8%)が「生徒同士と一緒に学べる仕組みづくり」、続いて 52 校(60.5%)が「座席の配置や教室の掲示の工夫など、学習環境への配慮」、さらに、49 校(57.0%)が「少人数クラスの編成」を行っている」と回答している。少人数クラスで、生徒同士と一緒に学べる仕組みづくりや学習環境への配慮というクラス運営には多くの学校が取り組んでいるが、「個別指導の充実」や「SSW(スクールソーシャルワーカー)の配置」、「個別カウンセリングの充実」等、多様な個性ある生徒への個々のアプローチが今後取り組みたい内容として挙げられている。

<令和4年度「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」より、「現在は十分に組み合わせていないが、今後取り組みを進めたいと考える内容を選択(複数回答可)」という問いに対して、回答数 86 校のうち「個別カウンセリングの充実」19 校(22.1%) 「SSW の配置」18 校(20.9%)、「個別指導の充実」17 校(19.8%)と回答。>

セーフティネットとしての機能をより充実させるために、既存教員の個別指導力やカウンセリング力の向上、また、SC(スクールカウンセラー)や SSW 等専門家の参画を推進しなければならない。

### ■モデル構築の必要性



## モデル構築が必要不可欠

### 【構築モデルの特徴】

- 行政機関、産業界、相談支援機関、教育機関が参画するモデル検討委員会及び3課題を解決するために3つの分科会を有する組織の設立・有機的な組織運営
- 認知度向上のための広報周知活動強化
- 「学び」と「職業」を結びつける仕組みを考え、職場見学・インターンシップを産業界と協働して実施
- 既存教員の個別指導力やカウンセリング力向上、さらに、外部専門家（SC、SSW）の参画により生徒個人へのアプローチ力を強化

## 5. 開発するモデルの概要

### 1) 事業実施体制の構築

#### ■ 全体会と分科会の設立

モデル検討委員会（＝全体会）は行政機関、産業界、相談支援機関、教育機関の全ての委員が所属するが、高等専修学校が持つ3つの課題に対して、専門性を持つメンバーが解決策を議論し、能動的に効率よく解決への道筋を立てるために3つの分科会（小グループ）を立ち上げる。分科会ごとにスモールステップとなる目標を掲げ、その達成に向けて議論・検討し、活動していく。

#### ■ 分科会の目的と主な取組み事項

分科会	目的	主な取組み事項	参画機関
認知度向上分科会	高等専修学校の認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知度向上のための取組み検討</li> <li>● 他都道府県の先進事例調査・分析</li> <li>● 高等専修学校参加校を増やす取組み</li> </ul>	行政機関 教育機関
企業連携・カリキュラム開発分科会	さらなる多様な学びを保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職場見学・インターンシップ受入れ時の課題分析</li> <li>● インターンシップ体験前・体験後キャリア教育カリキュラム案の検討</li> <li>● 受入れ企業・団体の開拓</li> <li>● 企業・団体の受入れマニュアル案の検討</li> </ul>	産業界 教育機関
セーフティネット推進分科会	セーフティネット機能を充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高等専修学校教員のカウンセリング力向上研修会開催</li> <li>● 発達障害及びグレーゾーンの生徒の対応力向上研修会開催</li> <li>● 教員が専門家によるカウンセリングやコンサルテーションが受けられる環境整備</li> </ul>	相談支援 機関 教育機関

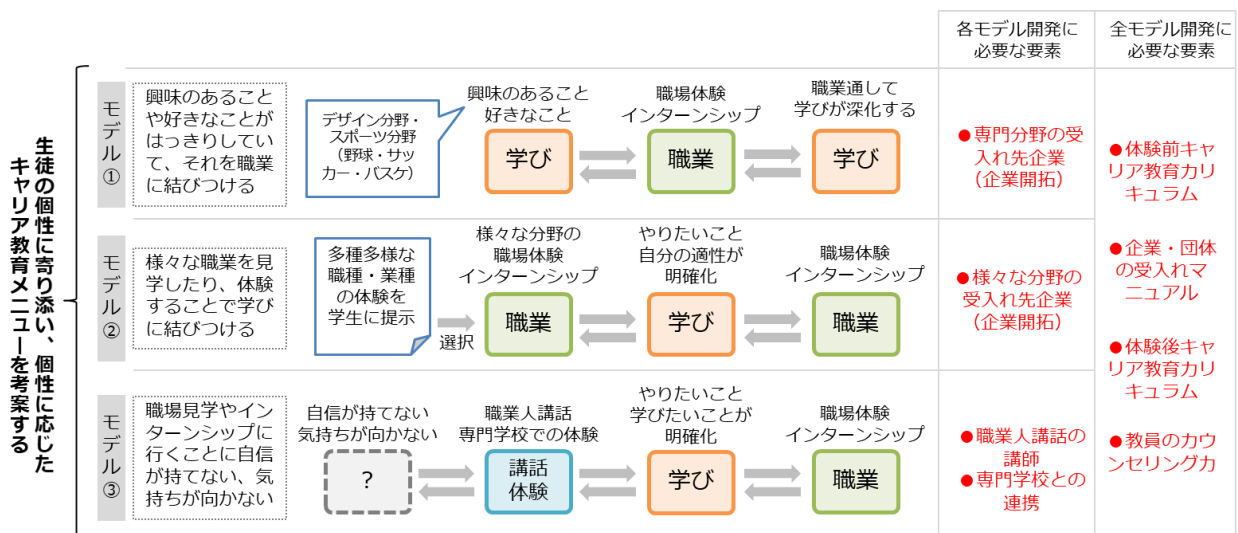
## 2) 認知度向上のための広報周知活動強化

ターゲット	伝える内容	周知方法
中学生とその保護者 中学校教員・高校教員	学校生活の様子、在校生の生の声、生徒アンケート結果（知ったきっかけ、入学動機等）	リーフレット作成・配付（2次元バーコードを掲載し、定期的にアップされる動画にアクセス可能）
行政（県及び市町村教育委員会）	高等専修学校について、高等専修学校の魅力	リーフレット作成後、教育委員会を訪問し、配付周知

## 3) 生徒の個性の寄り添った職場見学・インターンシップの実施体制を構築

高等専修学校の生徒の個性に寄り添いながら、「学び」と「職業」を結びつける仕組みを考える。高等専修学校で好きなことや興味のあることを学び、それを職業にしたいと思う生徒もいれば、職業体験を通して生徒のやりたいことや適性が明確化することもある。また、そもそも職場見学やインターンシップに行くことに自信が持てない、気持ちが前向きにならない場合もあり、職業人講話やグループ内の専門学校での体験により少しずつ職業へと繋げていく。生徒の個性の数と「学び」と「職業」を結びつける方法があると言っても過言ではなく、教員が丁寧にカウンセリングしながら見出していく。教員のカウンセリング力、受入れ企業の開拓（専門分野及び様々な分野）、職業人講話の講師、専門学校との連携は必要不可欠な要素となる。

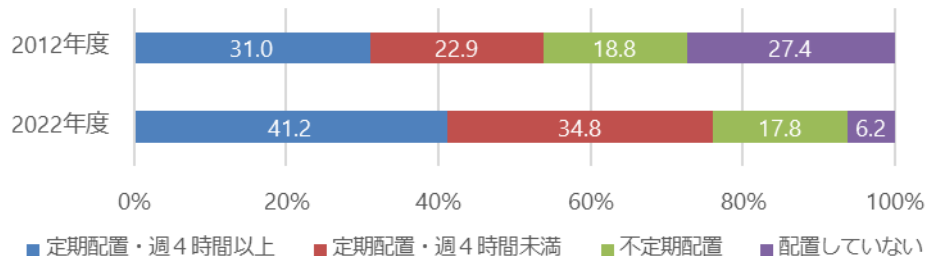
事業推進にあたり、基本的なモデル類型を行いつつも、実証で得られた事例に基づき、現場で活用できるプログラムの構築をは図る。



#### 4) セーフティネット機能充実のための相談支援モデルを構築

##### ■ 専門家配置の現状

文部科学省「学校保健統計調査」によると、高等学校のスクールカウンセラー(SC)の配置について、2012年度は配置していない学校が3割弱あったが、2022年度は9割以上配置し、うち4割は週4時間以上の定期配置を行っている。



高等学校でのSCの配置は徐々に増えてきており、SCは生徒が抱える問題に学校ではカバーし難い多くの役割を担い、教育相談を円滑に進めるための潤滑油ないし、仲立ち的な役割を果たしている。

一方、当校では、SCやSSWの配置は行っておらず、保健室設置及び養護教員配置もないというのが実情で、生徒が抱える問題の対応は学校内で教員が行っている。

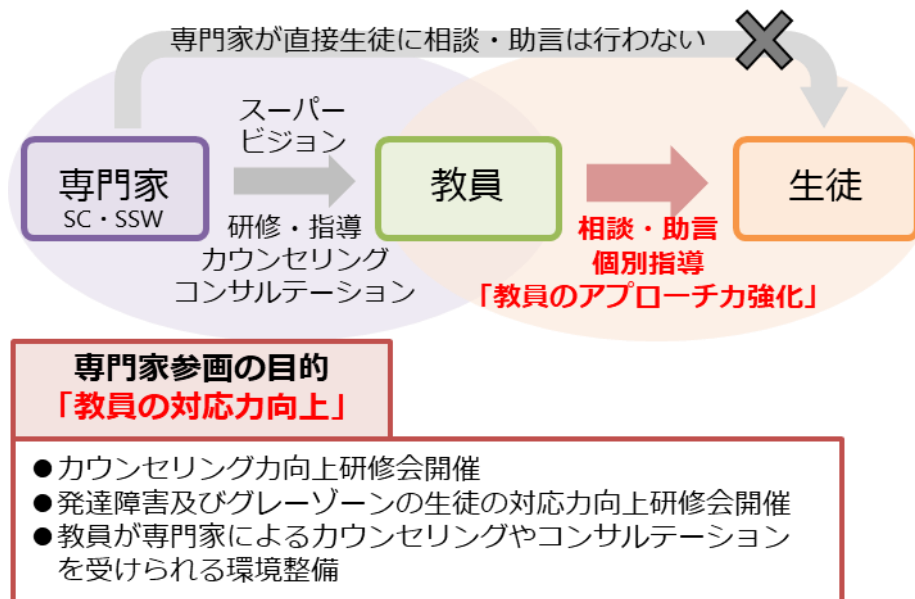
高等専修学校は、不登校や中退を経験した生徒のためのセーフティネットとして機能しており、当校にも過去に不登校や中退を経験した生徒が在席している。また、発達障害(ASD、ADHD、LD)の診断を受けている生徒、そのグレーゾーンの生徒も在席している。

##### ■ 外部からの専門家参画の役割

SCやSSWの配置がなく、保健室や養護教諭がない状況で、不登校や中退を経験した生徒や発

達障害及びそのグレーゾーンの生徒と日々接し、相談助言を行っている高等専修学校の教員にとって、SC やSSW 等専門家の参画により実現したいことは「教員に対する相談(カウンセリング、コンサルテーション)」や「教員向け対応研修」、「生徒の心理的な見立てや対応方法の指導」等である。そして、教員自身の対応力がさらに向上し、生徒へのアプローチ力を強化することで、セーフティネット機能をさらに充実させていく。

## ■構築する相談支援モデル



## 6. 計画の全体像

【令和6年度】

### 1. 事業実施体制の構築

#### 1) 全体会の設立

- ・委員会開催
- ・事業概要説明
- ・分科会説明
- ・調査分析報告
- ・次年度方向性の検討

#### 2) 分科会の設立

- ・分科会の目的確認
- ・各分科会の目標設定
- ・目標達成のための活動検討

### 2. アンケート・ヒアリング調査分析

#### 1) 学生アンケート調査

- ・高等専修学校の実態調査

- ・インターンシップ等についての調査
- 2) 教員ヒアリング調査
  - ・キャリア教育に関するヒアリング
  - ・インターンシップ等に関するヒアリング
- 3) 企業・団体ヒアリング調査
  - ・インターンシップ等に関するヒアリング
- 4) 調査分析報告
  - ・報告書作成、報告

### **3. 報告と成果物**

- 1) 事業報告書
- 2) Web サイトでの活動報告
- 3) 事業 PR 動画
- 4) 調査分析報告書

## **【令和 7 年度】**

### **1. モデル開発**

- 1) 職場見学・インターンシップ前・体験後  
キャリア教育カリキュラム
- 2) 認知度向上のための広報ツール制作

### **2. 実証授業実施**

- 1) 体験前キャリア教育
- 2) 職場見学・インターンシップの実施
- 3) 体験後キャリア教育

### **3. 教員向け研修実施**

- 1) 研修内容整理・講師手配
- 2) 研修会開催

### **4. 認知度向上のための活動**

- 1) 市町村教育委員会への周知
- 2) 適応指導教室、フリースクール訪問
- 3) 企業等・団体等訪問

### **5. 委員会開催**

- 1) 全体会開催(年 2 回開催)
- 2) 分科会開催

### **6. 報告と成果物**

- 1) 事業報告書
- 2) Web サイトでの活動報告
- 3) 事業 PR 動画

- 4) キャリア教育カリキュラム
- 5) 職場見学・インターンシップ実施報告書

**【令和 8 年度】**

**1. モデル開発**

- 1) 職場見学・インターンシップ開催時  
企業・団体の受入れマニュアル
- 2) 認知度向上のための広報ツール制作

**2. 実証授業(他校・他県)**

- 1) 体験前キャリア教育
- 2) 体験後キャリア教育

**3. 教員向け研修の実施(他校・他県)**

- 1) 講師手配・会場手配
- 2) 研修会開催

**4. 普及・定着方策の検討**

- 1) 普及に向けた広報物制作
- 2) 中学校での出前授業開催
- 3) 県教育振興基本計画における高等専修学校の  
位置づけを県に要望

**5. 委員会開催**

- 1) 全体会開催(年 2 回開催)
- 2) 分科会開催

**6. 報告と成果物**

- 1) 事業報告書
- 2) Web サイトでの活動報告
- 3) 事業 PR 動画
- 4) 普及に向けた広報物
- 5) インターンシップ評価表活用マニュアル

## 7. 今年度の具体的活動

### 1) スケジュール

時期	事業実施体制の構築	調査分析	認知度向上のための活動	その他
9月	モデル検討委員就任 分科会委員就任			
10月	第1回全体会開催 ・事業概要説明 ・分科会説明	アンケート・ヒアリング票 作成	企業訪問・行政機関訪問 学校（中学校・高校）訪問	
11月	分科会活動 ・分科会の目的確認 ・各分科会の目標設定	アンケート郵送 ヒアリング調査実施	適応指導教室等訪問 相談支援機関訪問	事業Webサイト制作開始
12月		アンケート回収		
1月	分科会活動 ・活動内容検討 ・次年度方向性の検討	アンケート・ヒアリング調 査集計、報告書作成		Webサイト完成 PR動画制作
2月	第2回委員会開催 ・調査分析報告 ・次年度方向性の検討	調査結果より課題整理		事業報告書作成
3月				事業Webサイト更新

### 2) 事業実施体制の構築

先述したように、モデル検討委員会（＝全体会）及び3つの分科会（＝小グループ）を立ち上げる。分科会ごとにスモールステップとなる目標を掲げ、その達成に向けて議論・検討し、活動していく。

## 8. 事業を実施する上で設置する会議

会議名①	モデル検討委員会
目的・役割	高等専修学校が持つ「認知度向上」、「さらなる多様な学びの保障」、「セーフティネット機能の充実」という3つの課題を解決し、高等専修学校の職業教育機能強化のために3つの分科会を設けるが、その3つの分科会を取りまとめ、モデルカリキュラム開発へ提言する。また、モデルカリキュラム評価、実証授業評価等、検証評価の役割も担う。



検討の 具体的内 容	1. 分科会の取りまとめ ・「認知度向上分科会」「企業連携・カリキュラム開発分科会」「セーフティネット 推進分科会」の取りまとめ ・モデルカリキュラム開発への提言 ・モデルカリキュラム改善点検討 ・実証授業改善点検討 ・開発したモデルカリキュラムの今後の実施・普及方策検討 2. 検証評価 ・開発教材、評価表 ・認知度向上のための広報活動 ・インターンシップ実施状況 ・教員向け研修実施状況 ・調査分析報告結果		
委員数	18人	開催頻度	令和6年度年2回 令和7,8年度年3回

会議名②	認知度向上分科会		
目的・役 割	高等専修学校の認知度向上を目的とする。		
検討の 具体的内 容	・認知度向上のための取組み検討 ・他都道府県の先進事例調査・分析 ・高等専修学校参加校を増やす取組み		
委員数	6人	開催頻度	年2回

会議名③	企業連携・カリキュラム開発分科会		
目的・役 割	高等専修学校のさらなる多様な学びを保障することを目的とする。		
検討の 具体的内 容	・職場見学・インターンシップ受入れ時の課題分析 ・インターンシップ体験前・体験後キャリア教育カリキュラム案の検討 ・受入れ企業・団体の開拓 ・企業・団体の受入れマニュアル案の検討		

委員数	10人	開催頻度	年2回
-----	-----	------	-----

会議名④	セーフティネット推進分科会		
目的・役割	セーフティネット機能を充実することを目的とする。		
検討の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等専修学校教員のカウンセリング力向上研修会開催</li> <li>・発達障害及びグレーゾーンの生徒の対応力向上研修会開催</li> <li>・教員が専門家によるカウンセリングやコンサルテーションが受けられる環境整備</li> </ul>		
委員数	9人	開催頻度	年2回

## 9. 事業を実施する上で必要な調査

調査名	「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築」に向けたアンケート調査
調査目的	高等専修学校には「認知度向上」、「さらなる多様な学びの保障」、「セーフティネット機能の充実」という3つの課題がある。また、高等専修学校には職業教育機能を強化することが求められている。3つの課題解決及び職業教育機能強化に向け、先導的モデルを構築するための基礎資料とするためアンケート及びヒアリング調査を実施する。調査結果をもとに高等専修学校に通う生徒、高等専修学校教員、県内中学校、高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れる企業の実態を把握し、構築モデルの方向性を取りまとめる。
調査対象	①高等専修学校に通う生徒(県内・県外)100名程度 ②沖縄県内中学校 140校程度
調査手法	質問紙法
調査項目	①高等専修学校に通う生徒(県内・県外)100名程度 1)実態調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等専修学校を知ったきっかけ</li> <li>・高等専修学校への入学動機</li> <li>・高等専修学校での体験活動や受けた指導</li> <li>・高等専修学校の魅力、課題</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の希望進路 等</li> <li>2) インターンシップ等についての調査</li> <li>・インターンシップ参加状況</li> <li>・インターンシップ実施経路</li> <li>・インターンシップ体験前・体験後のキャリア教育内容</li> <li>・インターンシップの意義、感想</li> <li>・将来や進路とインターンシップの関わり状況 等</li> <li>②沖縄県内中学校 140 校程度</li> <li>1) 高等専修学校の認知度</li> <li>2) 高等専修学校の課題</li> <li>3) 高等専修学校への要望 等</li> </ul>
分析内容 (集計項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等専修学校に通う生徒に高等専修学校を知ったきっかけや入学動機、入学してからの実態を調査</li> <li>・高等専修学校に中学生を送り出した中学校の実態を調査</li> <li>・高等専修学校に通う生徒とそこに送り出した中学校との実態を明らかにしたのち、認知度向上のための方策検討</li> <li>・高等専修学校生徒のインターンシップについての実態調査</li> </ul>
構築しようとしているモデルの検討にどのように反映するか (活用手法)	結果をふまえ、認知度向上のための広報ツール制作の方向性、インターンシップ体験前・体験後キャリア教育カリキュラムの内容を検討する。

調査名	「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築」に向けたヒアリング調査
調査目的	高等専修学校からインターンシップ等に生徒を送り出す教員側と受け入れる企業・団体側にそれぞれヒアリング調査し、キャリア教育及びインターンシップの現状と課題を分析、把握し、構築モデルの方向性を取りまとめる。
調査対象	①高等専修学校教員 10 名程度 ②インターンシップ受入れ企業・団体 10 社程度
調査手法	インタビュー法(対面またはオンライン)

調査項目	<p>①教員向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の実施状況</li> <li>・キャリアカウンセリングの実施状況</li> <li>・キャリア教育実施上の課題、困りごと</li> <li>・インターンシップ実施状況</li> </ul> <p>②企業・団体向け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ受入れ状況</li> <li>・インターンシップ受入れ上の課題、困りごと</li> <li>・学校内で求められる教育内容</li> </ul>
分析内容 (集計項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップに生徒を送り出す教員のキャリア教育とインターンシップに送り出す際の現状と課題分析</li> <li>・インターンシップで生徒を受け入れる企業の受入れ上の課題等を分析</li> <li>・教員と企業双方の意見を集約し、インターンシップの円滑な実施のための方策を検討</li> </ul>
構築しようとしているモデルの検討にどのように反映するか (活用手法)	<p>結果をふまえ、インターンシップ体験前・体験後キャリア教育カリキュラムの内容及び職場見学・インターンシップ開催時企業・団体の受入れマニュアルの内容を検討する。</p>

## 第2章 今年度の活動報告

今年度は調査分析を主に実施した。その調査結果は下記の通りである。

### 第1部:アンケート調査

#### 1. 趣旨・目的

高等専修学校には「認知度向上」、「さらなる多様な学びの保障」、「セーフティネット機能の充実」という3つの課題がある。また、高等専修学校には職業教育機能を強化することが求められている。3つの課題解決及び職業教育機能強化に向け、先導的モデルを構築するための基礎資料とするためアンケート及びヒアリング調査を実施する。調査結果をもとに高等専修学校に通う生徒、高等専修学校教員、県内中学校、高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れる企業の実態を把握し、構築モデルの方向性を取りまとめる。

#### 2. アンケート調査概要

##### 1) アンケート調査概要

本調査は、文部科学省委託事業「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築事業」の一環として実施した。調査目的は、高等専修学校の現状や課題を把握し、職業教育機能の強化、学びのセーフティネット機能の充実、多様な学びを保障する先導的モデル構築の基礎資料とすることである。以下2種類のアンケートを実施した。

##### 2) 高等専修学校生徒向けアンケート

対 象	高等専修学校に在籍する生徒 ・学校法人KBC学園 KBC高等学院 133人 ・学校法人学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校 84人
実施時期	・学校法人KBC学園 KBC高等学院: 令和6年11月27日～令和6年12月2日 ・学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校: 令和6年10月21日～令和6年11月1日
調査項目	学校選択のきっかけと入学理由 学校生活および授業内容への満足度 インターンシップの経験とその影響 入学後の良かった点と改善すべき点
調査方法	質問票配布およびWebフォームによる回答
回答時間	約10分

### 3) 沖縄県内中学校アンケート

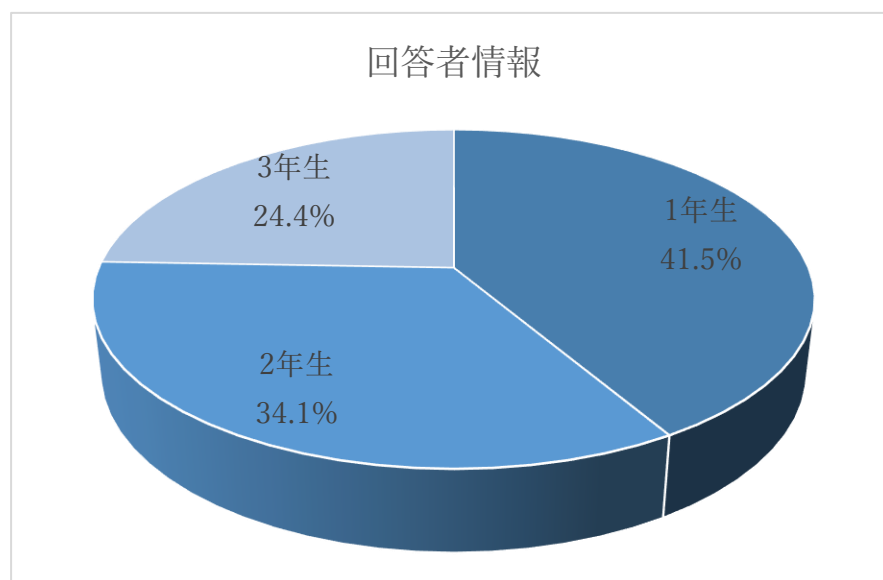
対 象	沖縄県内中学校教員
回答率	48%(120校送付 57校回答)
実施時期	令和6年10月21日～令和6年11月8日
調査項目	高等専修学校の認知度と特徴理解度 進路指導における推奨の状況 高等専修学校に期待される役割と提供すべきサポート 課題および改善点に関する意見
調査方法	質問票配布およびWebフォームによる回答
回答時間	約5～10分

### 3. 高等専修学校生徒向けアンケート

#### ● 基本情報

回答者情報(学年)を教えてください。

1	1年生	90	41.5%
2	2年生	74	34.1%
3	3年生	53	24.4%



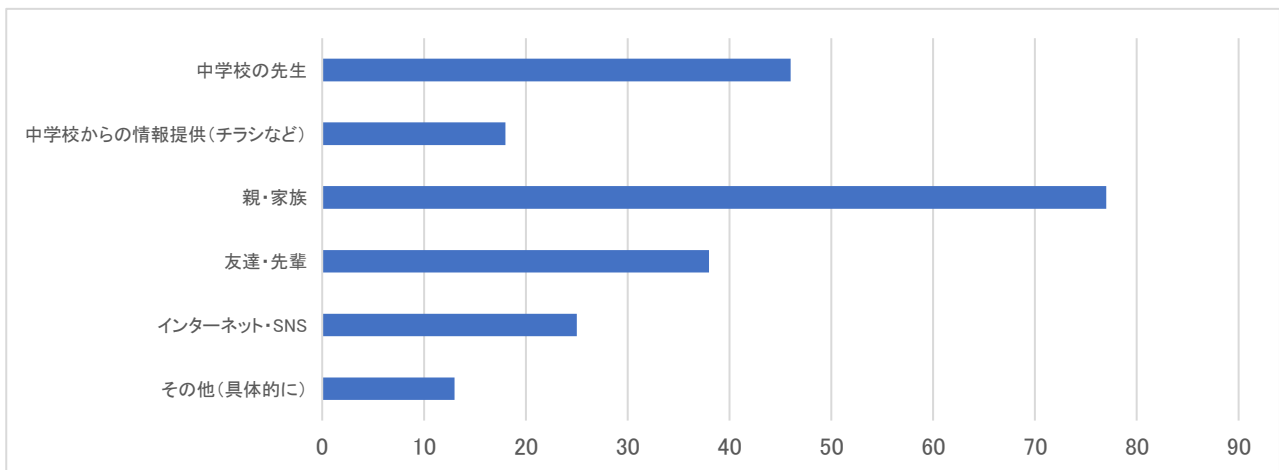
本調査の回答で多いものから順に、1年生 90人(41.5%)、2年生 74人(34.1%)、3年生 53人(24.4%)であった。

● 本校を知ったきっかけは何ですか？

a	中学校の先生	46	21.2%
b	中学校からの情報提供(チラシなど)	18	8.3%
c	親・家族	77	35.5%
d	友達・先輩	38	17.5%
e	インターネット・SNS	25	11.5%
f	その他(具体的に)	13	6.0%

具体的記述内容：

- ・ 回答無し
- ・ 知人の紹介
- ・ クラークに通ってた叔母
- ・ 小学校の監督
- ・ 体験会
- ・ クラブのコーチ
- ・ 体験授業
- ・ 育成会の監督
- ・ 宜保翔さんが行っていたから
- ・ 体験授業
- ・ 中学校の指導者
- ・ わすれた
- ・ 中学の時よしみねさんに呼ばれた時



本調査の回答で多いものから順に、親・家族 77 人 (35.5%)、中学校の先生 46 人 (21.2%)、友達・先輩 38 人 (17.5%) であった。

「親・家族」からの影響が最も多いことから、生徒の進学先選択において家族の意見が重要な役割を果たしていることがわかる。一方で、「インターネット・SNS」が一定の割合を占めており、デジタル媒体を通じた情報発信の有効性が示唆される。学校側がデジタルマーケティングに力を入れることで、さらなる認知度向上が期待できる。

● 入学を決めた理由は何ですか？

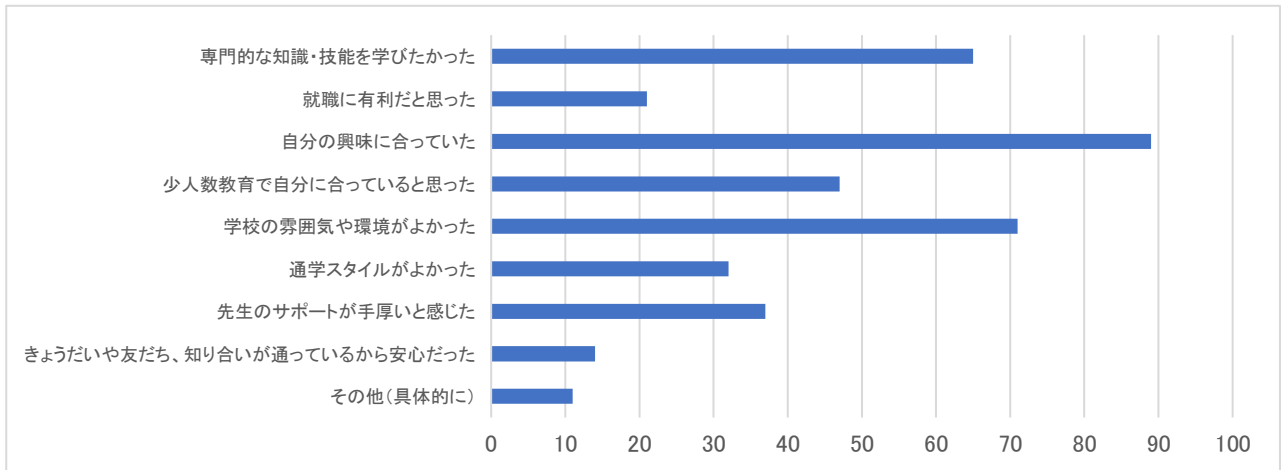
複数回答可

a	専門的な知識・技能を学びたかった	65	16.8%
b	就職に有利だと思った	21	5.4%
c	自分の興味に合っていた	89	23.0%
d	少人数教育で自分に合っていると思った	47	12.1%
e	学校の雰囲気や環境がよかった	71	18.3%
f	通学スタイルがよかった	32	8.3%
g	先生のサポートが手厚いと感じた	37	9.6%
h	きょうだいや友だち、知り合いが通っているから安心だった	14	3.6%
i	その他(具体的に)	11	2.8%

具体的記述内容：

- ・ 大学
- ・ 野球
- ・ 行きたいところがなかった
- ・ サッカーしたいから
- ・ メンツが楽しそうだった
- ・ 親にここ行ったらって言われたから
- ・ 資格や検定が沢山取れる環境だったから
- ・ e スポーツの部活があったから
- ・ ゲーム部
- ・ なんとなく
- ・ 普通授業が少なかったから

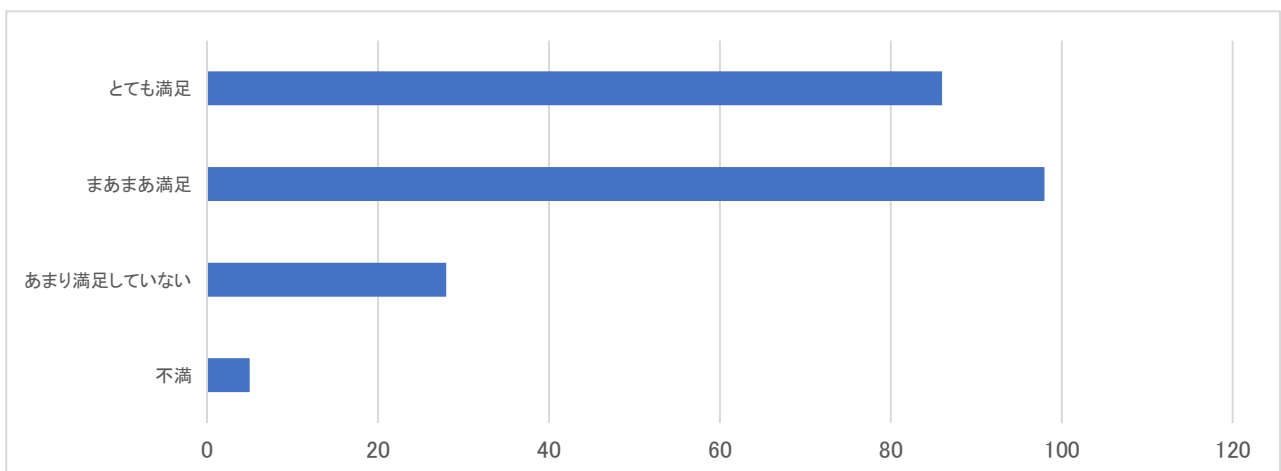




本調査の回答で多いものから順に、自分の興味に合っていた 89 人 (23.0%)、学校の雰囲気や環境がよかった 71 人 (18.3%)、専門的な知識・技能を学びたかった 65 人 (16.8%) であった。「自分の興味に合っていた」という回答が最も多いことから、生徒が興味を持てる専門分野を提供することが学校選択の大きな要因となっている。また、「学校の雰囲気や環境がよかった」という回答も多く、学校側の施設や教育環境、雰囲気づくりが生徒や保護者に与える影響が大きいと考えられる。さらに、「資格や検定が沢山取れる環境だから」という具体的理由もあり、生徒自身向上心を持って選択していることもうかがえる。

● 本校に入学してからの満足度を教えてください。

a とても満足	86	39.6%
b まあまあ満足	98	45.2%
c あまり満足していない	28	12.9%
d 不満	5	2.3%

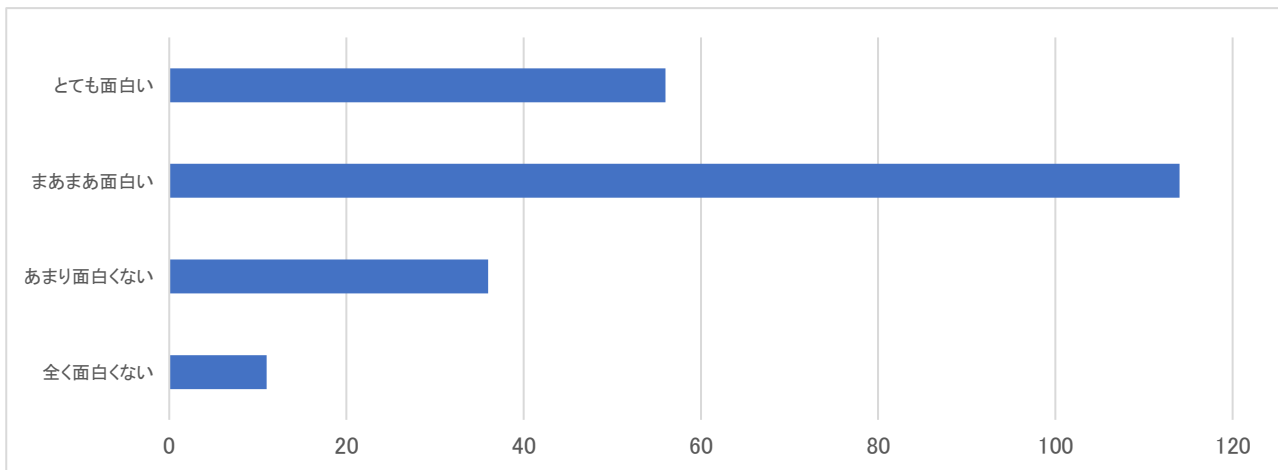


本調査の回答で多いものから順に、まあまあ満足 98 人 (45.2%)、とても満足 86 人 (39.6%)、あまり満足していない 28 人 (12.9%) であった。

「満足」と感じている生徒が 8 割以上に達しており、学校が提供する教育や環境が多くの生徒にとって適していることが示唆される。一方で、「あまり満足していない」「不満」と答えた生徒も一定数存在する。

● 普通科目(国・数・英・理・社)の授業内容についてどう感じていますか？

a	とても面白い	56	25.8%
b	まあまあ面白い	114	52.5%
c	あまり面白くない	36	16.6%
d	全く面白くない	11	5.1%

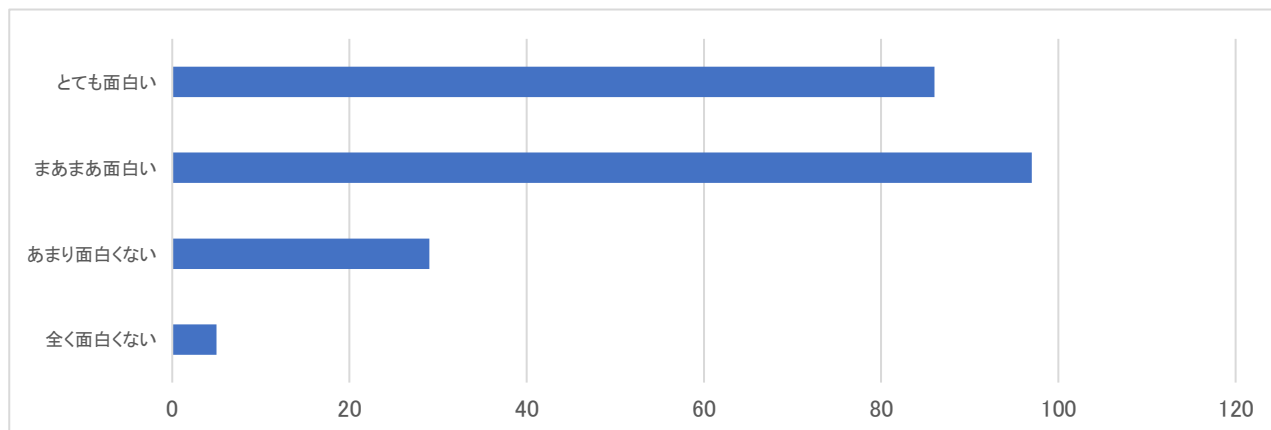


本調査の回答で多いものから順に、まあまあ面白い 114 人 (52.5%)、とても面白い 56 人 (25.8%)、あまり面白くない 36 人 (16.6%) であった。

普通科目を「面白い」と感じている生徒が約 8 割に上り、授業内容が一定の興味を引いていることが分かる。ただし、「あまり面白くない」「全く面白くない」と感じる生徒も存在する。

● 専門科目の授業内容についてどう感じていますか？

a	とても面白い	86	39.6%
b	まあまあ面白い	97	44.7%
c	あまり面白くない	29	13.4%
d	全く面白くない	5	2.3%

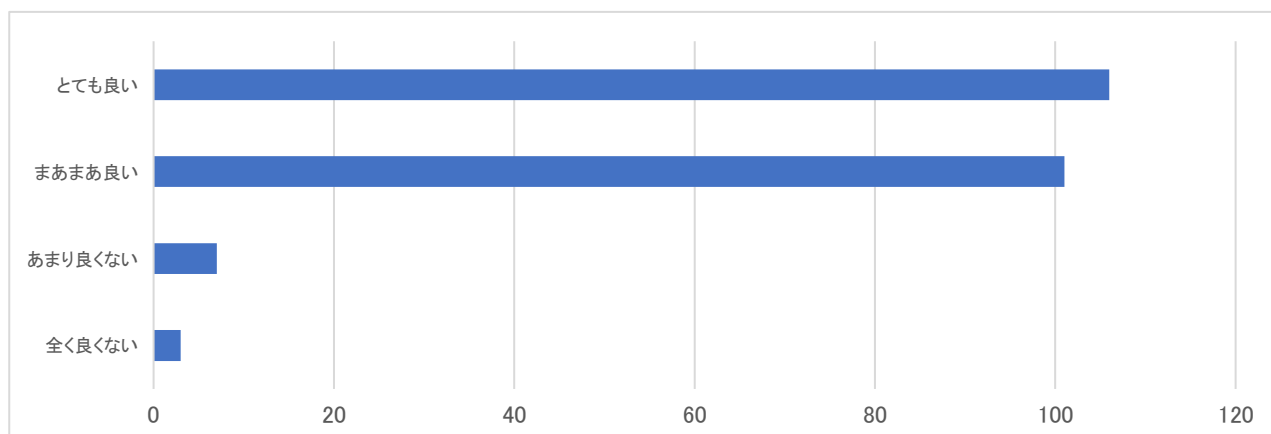


本調査の回答で多いものから順に、まあまあ面白い 97 人 (44.7%)、とても面白い 86 人 (39.6%)、あまり面白くない 29 人 (13.4%) であった。

専門科目の「面白い」と感じている生徒の割合が普通科目より高いことから、専門分野に特化した教育が生徒にとって魅力的であることがうかがえる。これを活かし、さらなる専門性や実践的な内容を取り入れることで、満足度をさらに向上させられる可能性がある。

● 友だちとの関係はどうですか？

a	とても良い	106	48.8%
b	まあまあ良い	101	46.5%
c	あまり良くない	7	3.2%
d	全く良くない	3	1.4%

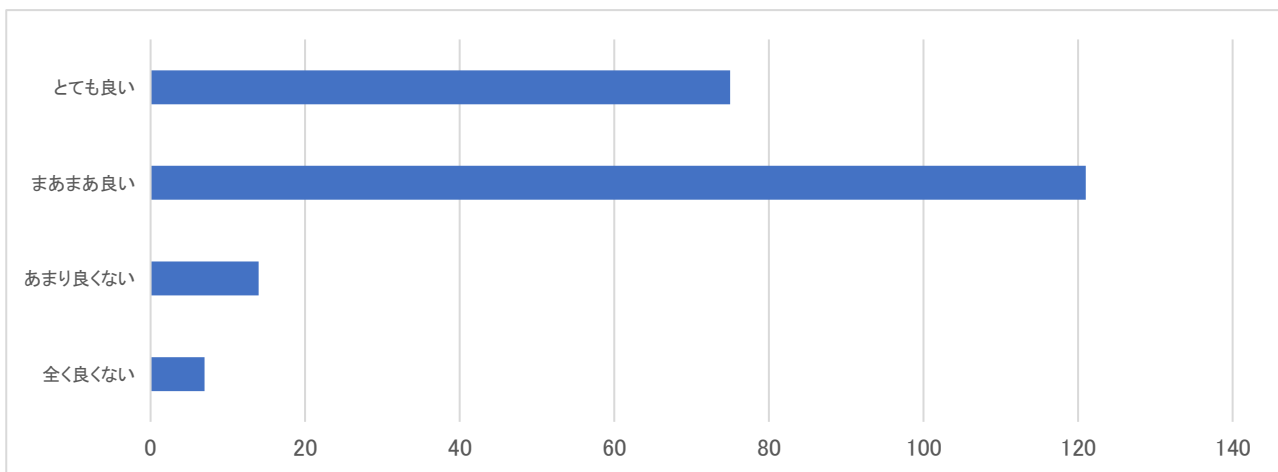


本調査の回答で多いものから順に、とても良い 106 人 (48.8%)、まあまあ良い 101 人 (46.5%)、あまり良くない 7 人 (3.2%) であった。

「良い」と感じている生徒が 95% に達しており、学校生活が人間関係において非常に良好な環境であることが示されている。これにより、生徒が安心して学校生活を送る基盤が整っていると考えられる。

● 学校の設備についてどう思いますか？

a とても良い	75	34.6%
b まあまあ良い	121	55.8%
c あまり良くない	14	6.5%
d 全く良くない	7	3.2%

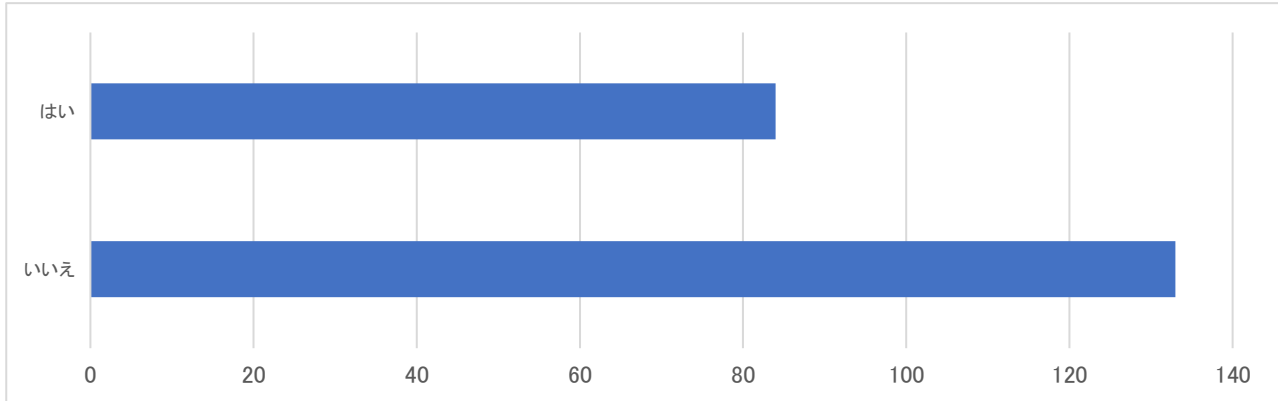


本調査の回答で多いものから順に、まあまあ良い 121 人 (55.8%)、とても良い 75 人 (34.6%)、あまり良くない 14 人 (6.5%) であった。

「良い」と感じている生徒が 9 割近くに上ることから、学校設備が生徒の学習環境として十分なレベルにあると考えられる。一方で、「あまり良くない」「全く良くない」と答えた生徒もいる。

● インターンシップに参加したことはありますか？

a	はい (→問 11 へ)	84	38.7%
b	いいえ (→問 16 へ)	133	61.3%



本調査の回答では、参加した 84 人 (38.7%) であった。

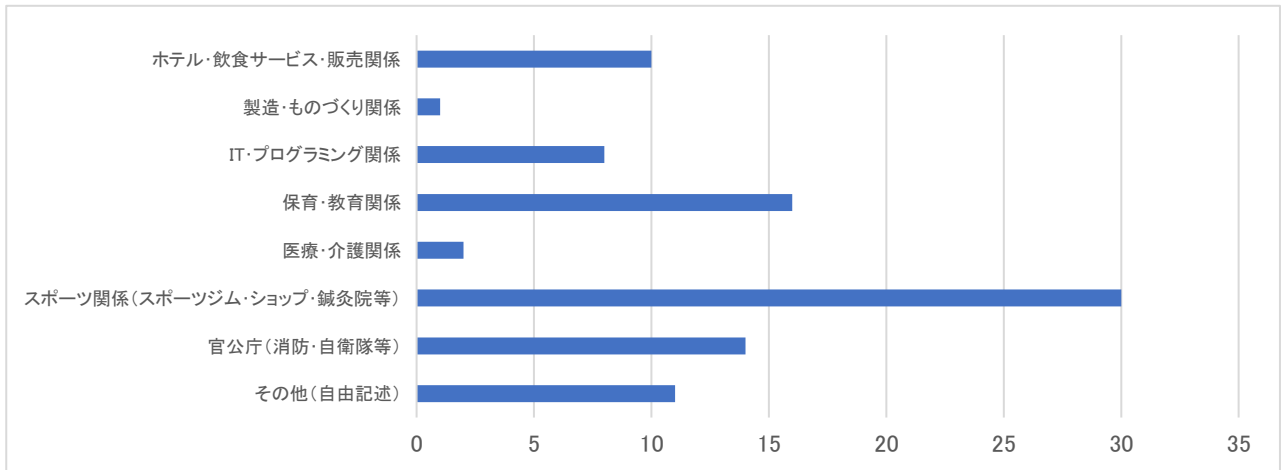
● どのようなインターンシップに参加しましたか？

複数回答あり

a	ホテル・飲食サービス・販売関係	10	10.9%
b	製造・ものづくり関係	1	1.1%
c	IT・プログラミング関係	8	8.7%
d	保育・教育関係	16	17.4%
e	医療・介護関係	2	2.2%
f	スポーツ関係(スポーツジム・ショップ・鍼灸院等)	30	32.6%
g	官公庁(消防・自衛隊等)	14	15.2%
h	その他(自由記述)	11	12.0%

自由記述内容：

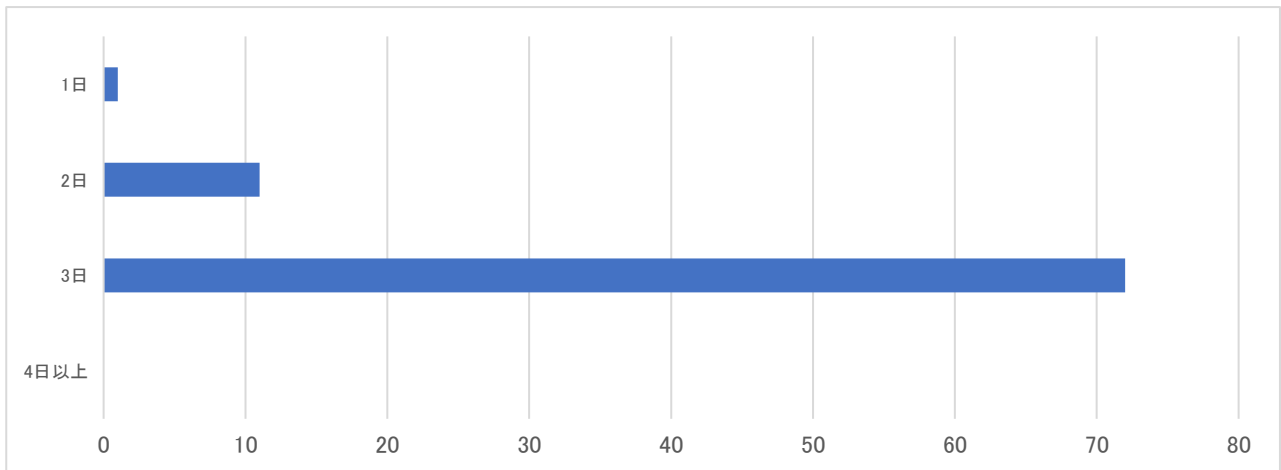
- ・ 接客業
- ・ 動物園
- ・ 接客
- ・ ボランティア
- ・ カワサキバイク
- ・ つなぐみらい
- ・ 学校
- ・ 犬カフェ
- ・ 犬カフェ
- ・ 動物カフェ
- ・ 音楽関係



本調査の回答で多いものから順に、スポーツ関係 30 人 (32.6%)、保育・教育関係 16 人 (17.4%)、官公庁 14 人 (15.2%) であった。

● インターンシップの実施日数はどのくらいでしたか？

a	1 日	1	1.2%
b	2 日	11	13.1%
c	3 日	72	85.7%
d	4 日以上	0	0.0%

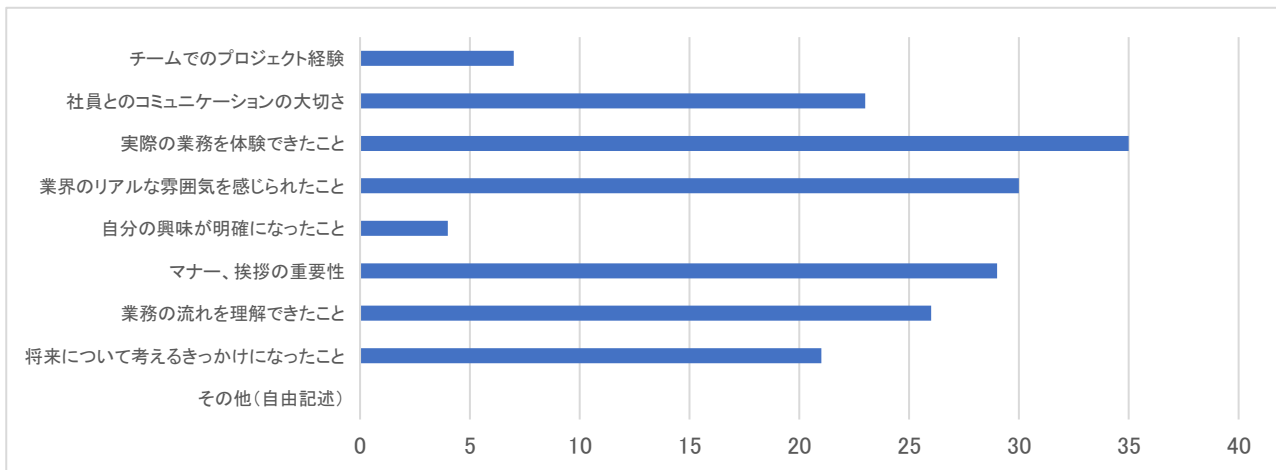


本調査の回答で多いものから順に、3 日 72 人 (85.7%)、2 日 11 人 (13.1%)、1 日 1 人 (1.2%) であった。

● インターンシップに参加して印象に残った経験や学びは何ですか？

複数回答可

a	チームでのプロジェクト経験	7	4.0%
b	社員とのコミュニケーションの大切さ	23	13.1%
c	実際の業務を体験できたこと	35	20.0%
d	業界のリアルな雰囲気を感じられたこと	30	17.1%
e	自分の興味が明確になったこと	4	2.3%
f	マナー、挨拶の重要性	29	16.6%
g	業務の流れを理解できたこと	26	14.9%
h	将来について考えるきっかけになったこと	21	12.0%
i	その他(自由記述)	0	0.0%



本調査の回答で多いものから順に、実際の業務を体験出来たこと 35 人(20.0%)、業務のリアルな雰囲気を感じられたこと 30 人(17.1%)、マナー・挨拶の重要性 29 人(16.6%)であった。

インターンシップを通じて業務体験や業界の雰囲気を実感した生徒が多いことから、現場経験が進路形成において重要な役割を果たしていることが分かる。参加した生徒の感想を共有することで、他の生徒の参加意欲を高める効果が期待される。

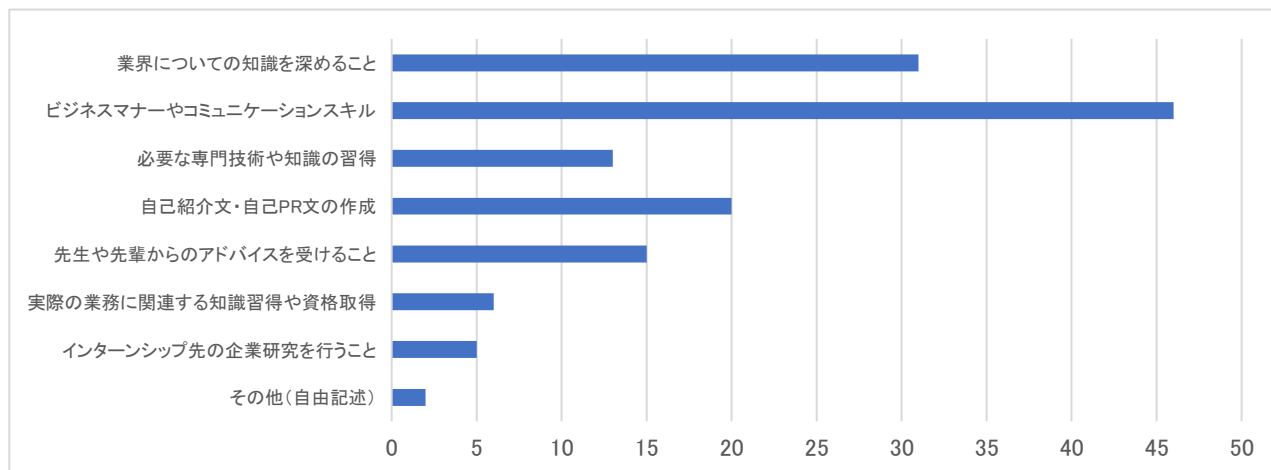
● インターンシップに参加する前に、どのような準備や学びが必要だと感じましたか？

複数回答可

a	業界についての知識を深めること	31	22.5%
b	ビジネスマナーやコミュニケーションスキル	46	33.3%
c	必要な専門技術や知識の習得	13	9.4%
d	自己紹介文・自己PR文の作成	20	14.5%
e	先生や先輩からのアドバイスを受けること	15	10.9%
f	実際の業務に関連する知識習得や資格取得	6	4.3%
g	インターンシップ先の企業研究を行うこと	5	3.6%
h	その他(自由記述)	2	1.4%

自由記述内容：

- ・ わからない
- ・ 笑顔



本調査の回答で多いものから順に、ビジネスマナーやコミュニケーションスキル 46 人 (33.3%)、業界についての知識を深めること 31 人 (22.5%)、自己紹介文・自己PR文の作成 20 人 (14.5%)であった。

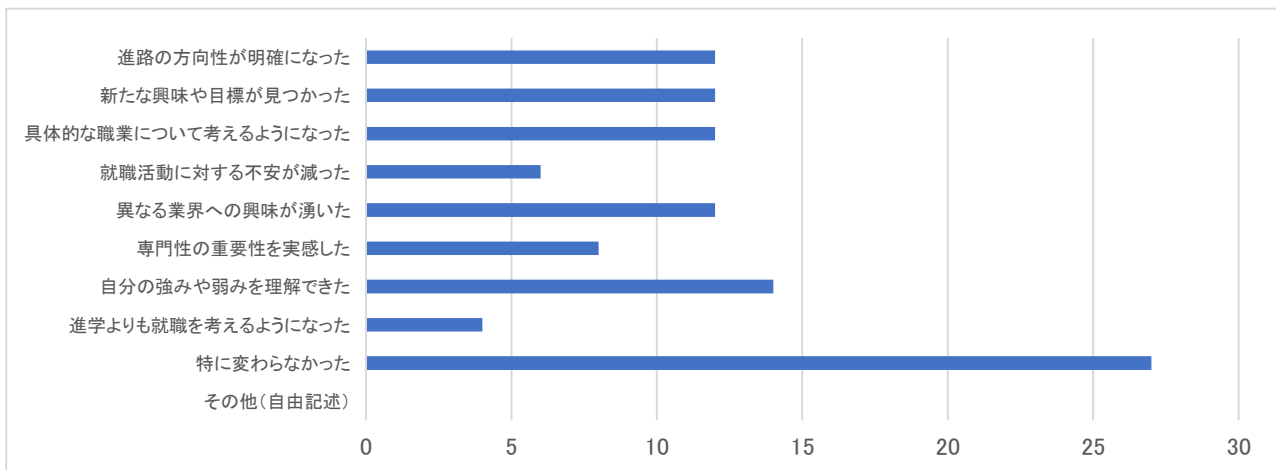
「ビジネスマナーやコミュニケーションスキル」の必要性を感じた生徒が最も多いことから、生徒は実社会における基本的な振る舞いや対人スキルへの不安を抱えていることが示唆される。また、「業界についての知識を深めること」や「自己紹介文・自己PR文の作成」など、自分を表現するスキルや業界への理解を重視する傾向も見られる。これらの結果は、事前に社会人としての基礎的なスキルを学ぶ場や業界研究の機会を設けることが、インターンシップの成功につながることを示唆している。



● インターンシップ参加後、自分の進路に対する考え方がどのように変わりましたか？

複数回答可

a	進路の方向性が明確になった	12	11.2%
b	新たな興味や目標が見つかった	12	11.2%
c	具体的な職業について考えるようになった	12	11.2%
d	就職活動に対する不安が減った	6	5.6%
e	異なる業界への興味が湧いた	12	11.2%
f	専門性の重要性を実感した	8	7.5%
g	自分の強みや弱みを理解できた	14	13.1%
h	進学よりも就職を考えるようになった	4	3.7%
i	特に変わらなかった	27	25.2%
j	その他(自由記述)	0	0.0%



本調査の回答で多いものから順に、特に変わらなかった 27 人 (25.2%)、自分の強みや弱みを理解できた 14 人 (13.1%)、進路の方向性が明確になった、新たな興味や目標が見つかった、具体的な職業について考えるようになった、異なる業界への興味が湧いた、がそれぞれ 12 人 (11.2%) であった。

「特に変わらなかった」という回答が最も多い一方で、「自分の強みや弱みを理解できた」や「新たな興味や目標が見つかった」といったポジティブな変化を実感した生徒も一定数存在する。これは、インターンシップが参加した生徒にとって劇的な変化をもたらすわけではないが、一部の生徒にとって進路意識の深化や新たなキャリア目標の発見につながる可能性があることを示している。

- 本校に入学して良かったことはありますか?あれば記入してください。

#### 自由記述

- ・ 先生方や先輩方なども優しく接してくれて、様々なことを教えてくれたりしたので、自分が思った通りの学校なので良かったと思います。
- ・ 学校に通えるようになったこと。
- ・ 手厚いサポートがあること
- ・ 特になし
- ・ 体育たのしい e スポーツたのしい
- ・ 先生がせっきょくてきにわからない事を教えてくれる。授業がわかりやすい。
- ・ 校則と勉強が少し優しめで自分でも分かってやりやすい。すごしやすい。先生たちも優しく相談しやすい。
- ・ 自分の強みをのばすことができる。目標ができて毎日頑張ることができている。
- ・ 友人がふえたこと・学校が楽しみになったこと
- ・ 個性を大事にしてくれる。自分のペースで来れる。楽しい学校生活が送れる。
- ・ 自分にあった時間に登校できるのでストレスがへった
- ・ 行事が多いこと
- ・ 友達がたくさん作れた。気軽に学校に行けるようになった。
- ・ 以前より学校に行ける回数が増えた。自力で学校に行けるようになった。行事に参加できるようになった。
- ・ 特になし
- ・ 様々な人に出会えた。
- ・ 先生が良い人ばかりというところ、e スポーツがあるところ
- ・ 自分が今まで知らなかったことを沢山知ることができて、とても勉強になりました。入学できて本当に良かったと思っています。
- ・ 先生たちがやさしくおもしろい先生たちだった。
- ・ 検定が沢山とれること。毎日学校に行くので生活リズムを整えられること。コース関係なく自分の興味のある分野が学べること。
- ・ 毎日学校に楽しく通えていること。
- ・ 友達の関係が良くなった。
- ・ 自分のペースであせらずに登校できたことで友人もたくさんできた
- ・ 毎日少しでも授業に出られるようになったこと。
- ・ 自分の好きなことを、毎日学べる事が嬉しい(漫画)
- ・ 様々な検定が挑戦できるのがとても良かったと思いました。
- ・ 自分のしたい勉強をいろいろ学ぶことができ、学校もとても静かなので、しげきが少なく生活ができる。
- ・ とくになし
- ・ 友達が増えたり、学校へ行く習慣が取り戻せた。

- ・ 自分のしたいことができる。自分のペースが組みやすい。
- ・ 色々な検定や留学など制度があり挑戦できた
- ・ 毎日楽しい学校です。
- ・ 中学校の時よりも学校に行けるようになった。
- ・ インターアクトクラブが好きです。
- ・ 先生と友達が優しく、検定もいっぱい取れるので、すごく良いと思います。
- ・ 検定がとれたこと
- ・ 環境が変わったことで体調を崩すことが少なくなった。積極的な人間になれた。検定や IAC(インターアクトクラブ)など様々な経験ができています。
- ・ 特になし。
- ・ 少人数で自分に合った環境で学べて良かったと思いました。
- ・ しっかり学校に通えている。検定の取得ができた。
- ・ 将来に対してより深く考えるようになった
- ・ 先生と接しやすい
- ・ みんなとかかわりやすい
- ・ この学校にくる前は、不登校になっていたが、この学校にきて普通に学校生活がおくれるようになったこと。
- ・ 優しい先生達に出会えたこと。
- ・ コミュニケーション能力がみについた
- ・ 資格が取れました。友達が増えました。
- ・ さまざまな検定を受けられるところ。
- ・ お弁当を持参してこなくてもカップメンが売ってあるからいいとパソコンの授業がある事
- ・ 人生を見直し、変れるきっかけをつくれた。自分の能力を伸ばせた。
- ・ なし
- ・ たくさんの検定を取得することが出来ること。
- ・ 検定がたくさん取得できて良かった。
- ・ テストが楽な事
- ・ 検定を取得できたこと
- ・ 中学より野球に集中できる
- ・ 野球に集中できる
- ・ たのしい
- ・ ない
- ・ 勉強する時間が短い
- ・ 部活に集中して出来ること。
- ・ 自分の好きなことに取り組める。
- ・ 野球を普通校より多くできる
- ・ 午前中だけ授業なので最高です
- ・ 短時間で授業受けられるから集中しやすい

- ・ ない
- ・ 野球に打ち込める
- ・ 授業が3校時
- ・ 野球に集中することができる
- ・ 部活も勉強も充実していて楽しい
- ・ 友達が増えたこと。  
他の学校とは違ってて良さがあること
- ・ 設備がしっかりしている
- ・ 筋トレルームがある
- ・ しっかりと授業もしつつ、午後から野球ができる
- ・ 好きな野球の時間が多くできてよかった
- ・ 部活を頑張れる
- ・ 授業が他の学校より少ない
- ・ 部活に集中して取り組むことができる
- ・ 進学の際に周りの先生が手厚くサポートしてくれた
- ・ 授業が午前中だけ
- ・ 単位が取りやすい
- ・ 好きなことができる環境があること
- ・ 野球がしっかりできる
- ・ 授業が3時間で家に帰るのも早いので自習の時間がとれる
- ・ 部活動の時間が長い
- ・ 好きな野球にうちこめること
- ・ 野球に専念できる
- ・ 部活に専念できる
- ・ サッカーに集中できる
- ・ 友好関係は良い
- ・ なし
- ・ サッカーができる
- ・ 休みが多い
- ・ 家から近い
- ・ パソコンについてよく理解できること
- ・ パソコンのことを学べる
- ・ 多くの資格や検定を取得できたこと  
環境が良かったこと(少人数制だったり)
- ・ 専門授業
- ・ 実際の現場でも使われるようなソフトに触れて良かった
- ・ 専門的な部分を学べるのでいい
- ・ 他の高校

生より専門的な知識が増え進学や就職に有利になるし、学校の雰囲気もめちゃくちゃ良くてすごく通いやすい！友達に恵まれました

- ・ 専門科目の授業がたのしい
- ・ 自分と同じような趣味を持った人がたくさんいてすぐ仲良くなれた
- ・ パソコンに興味のある友達が増えた
- ・ 地元とは違う人と仲よくなれた
- ・ ゆるい
- ・ 専門学校はよくないってことがわかった
- ・ 専門的な知識を学べる学習ができたこと。
- ・ パソコンを使った授業があること
- ・ 特になし
- ・ 資格が取れた
- ・ 入学前に比べて、高校卒業後の進路がはっきりとしてきたこと。
- ・ パソコンの授業があること
- ・ It の知識が少し増えた

自由記述の回答からは、本校の入学後に生徒が感じたメリットが多岐にわたることがうかがえる。具体的には、「自分に合った時間やペースで学べる」「先生のサポートが手厚い」「友人関係が良好」「多くの資格や検定を取得できる」といった点が挙げられ、生徒一人ひとりが自分に適した環境を見つけていることが分かる。また、「学校に通えるようになった」「生活リズムが整った」という声もあり、不登校や生活習慣の課題を乗り越える支援が行われていることが評価されている。

総じて、高等専修学校の少人数制や個別対応、専門的なカリキュラムが生徒にとって学びやすい環境を提供していることが、生徒満足度の向上につながっている。一方で、これらの取り組みをさらに充実させることで、より多くの生徒にとって効果的な学びの場となる可能性がある。

- 本校入学して悪かったことはありますか？あれば記入してください。

自由記述

- ・ ありません。
- ・ 特になし
- ・ 特に無し
- ・ 髪色が少し注意されるようになった
- ・ 授業をさぼりやすくなった  
好きな教科しか行かなくなった
- ・ 特に無し
- ・ 全体的に小さくて狭い、コースがあるとはいえやりたいことができる
- ・ 特になし
- ・ 特になし
- ・ ことは、入学生が多いため少人数で気に入って入ったがそれがなくなってしまったこと。  
(※今年の入学生は人数が多く、少人数制と聞いていたが、それがかなわなかった。)
- ・ 特にない
- ・ ないです。
- ・ なし
- ・ ない
- ・ たいいくかんがない
- ・ なし
- ・ なし
- ・ なし
- ・ ないです
- ・ ない
- ・ 学費高い
- ・ 行事が少ない。  
メンタル面の弱い人が多いから練習にならない。
- ・ ないです。
- ・ 特にないです
- ・ 女の子が少ないから人間関係がめんどくさい
- ・ ない
- ・ 特になし
- ・ 学校行事がもう少し欲しい
- ・ あんましない
- ・ 校舎が小さい
- ・ 行事の規模が小さい
- ・ 入学前と入学後で指導者の態度が変わる

- ・ とくにない
- ・ 違う部活とあまり仲が良くない、行事など
- ・ 学校が狭い
- ・ 生徒の問題に対して見逃すところがある
- ・ ない
- ・ 部活が苦痛に感じる時がある
- ・ とくになあ
- ・ 部活が入学前に話していたのとは違かった
- ・ 騙されてる
- ・ ありません
- ・ くらすがおもんない
- ・ 授業がうるさい
- ・ バスの中の環境
- ・ なし
- ・ 解散時間守って欲しいしみんなのやる気を起こして欲しい
- ・ コミュニケーションのなさ
- ・ ない
- ・ 野球部の人をバカにする人がいる
- ・ 進路に関する授業自体はあるが、調べたり決めたりする授業ばかりで、共通テストの対策や面接対策は授業外でしないといけないところ  
専門授業の際、ソフトの知識がなく難しかったりするところ
- ・ ・生徒の個人情報、プライバシーの管理に少し粗を感じます。
- ・ 同じような行事を何回も行うより、文化祭や学園祭など大きい行事を経験してみたかった
- ・ まれにある過密スケジュールに悩まされることがある
- ・ 教室に行くまでの4階が長いのでエレベーターほしいです。
- ・ ない
- ・ eスポーツ部があったから入学したのにその部活に教えてくれる指導者がいなかった。また、部活で使用するパソコンの性能が少し足りなくて満足に活動出来なかった
- ・ とおい
- ・ 全体レクが少ない
- ・ 生徒が人として悪い
- ・ 大学入学に不利
- ・ ありません
- ・ 他コースの行いが悪い。よくない噂も多い。人として終わってる人が多い(生徒)
- ・ 専修学校なので普通科目が他校に比べて弱いこと。
- ・ ありません
- ・ 特にありません

自由記述の回答から、「特に悪かったことはない」とする声が多い一方で、いくつかの課題も指摘されている。具体的には、「施設や校舎の狭さ」「行事や部活の内容への不満」「学費の高さ」など、物理的・経済的な側面に関する改善要望が目立つ。また、「部活や授業の内容が事前の期待と異なった」「他の生徒との関係やマナーに問題がある」など、一部の生徒間での不満や期待値との差異が課題として挙げられている。

これらの指摘から、生徒の多様なニーズに応じた柔軟な対応や、施設や活動内容のさらなる充実が必要とされていることが分かる。また、事前説明会や情報提供を通じて入学前の期待値を適切に調整することも、入学後の満足度向上に寄与する可能性がある。



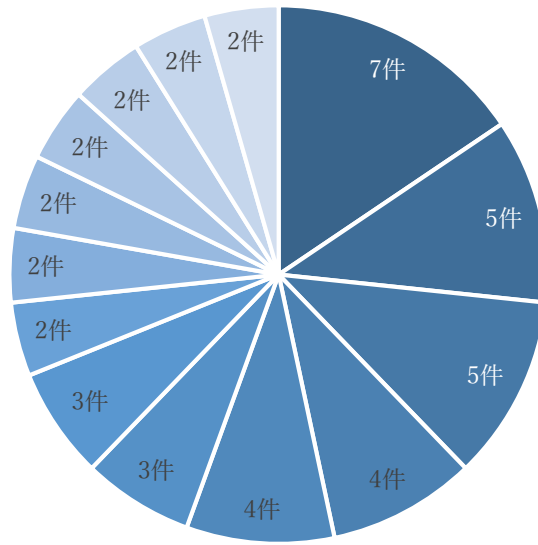
#### 4. 沖縄県内中学校アンケート

● 基本情報

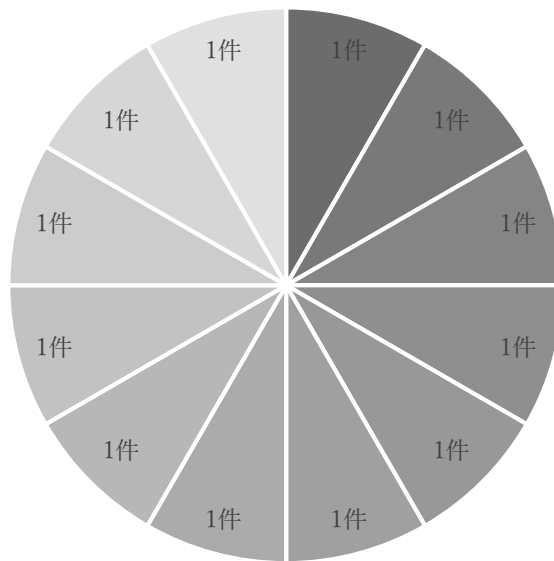
回答者情報(市町名)を教えてください。

1 沖縄市	3 件
2 うるま市	5 件
3 名護市	2 件
4 宜野湾市	3 件
5 浦添市	2 件
6 那覇市	7 件
7 豊見城市	1 件
8 糸満市	2 件
9 南城市	2 件
10 石垣市	4 件
11 宮古島市	5 件
12 嘉手納町	1 件
13 読谷村	2 件
14 北谷町	2 件
15 北中城村	1 件
16 西原町	1 件
17 南風原町	1 件
18 八重瀬町	1 件
19 大宜味村	1 件
20 竹富町	4 件
21 与那国町	1 件
22 粟国村	1 件
23 座間味村	2 件
24 渡名喜村	1 件
25 伊平屋村	1 件
26 南大東村	1 件

回答者情報



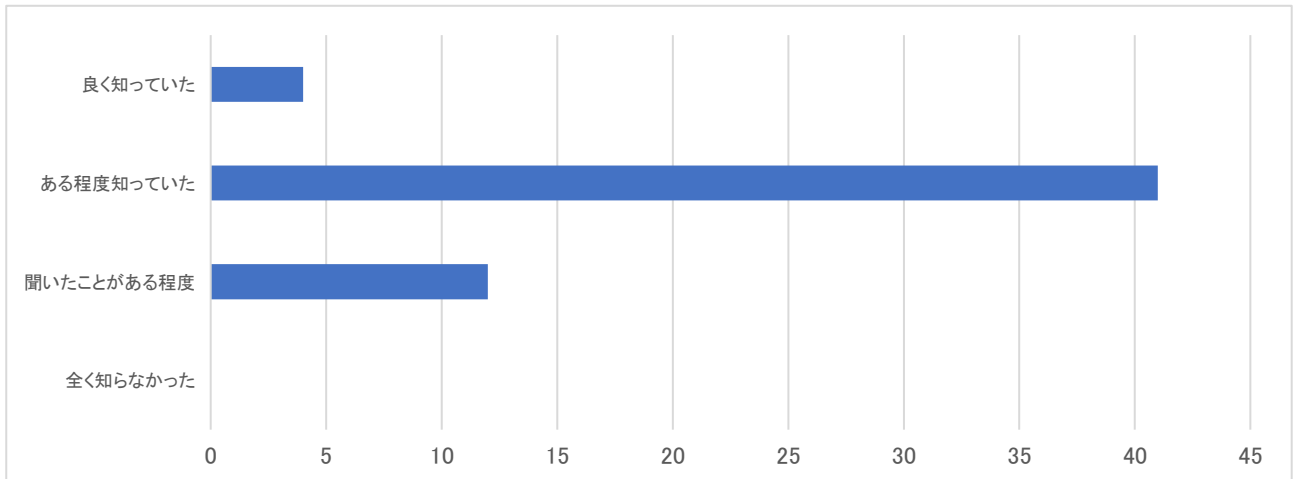
- 那覇市
- うるま市
- 宮古島市
- 石垣市
- 竹富町
- 沖繩市
- 宜野湾市
- 名護市
- 浦添市
- 糸満市
- 南城市
- 読谷村
- 北谷町
- 座間味村



- 豊見城市
- 嘉手納町
- 北中城村
- 西原町
- 南風原町
- 八重瀬町
- 大宜味村
- 与那国町
- 粟国村
- 渡名喜村
- 伊平屋村
- 南大東村

● 高等専修学校についてご存じでしたか？

1 良く知っていた	4	7.0%
2 ある程度知っていた	41	71.9%
3 聞いたことがある程度	12	21.1%
4 全く知らなかった	0	0.0%

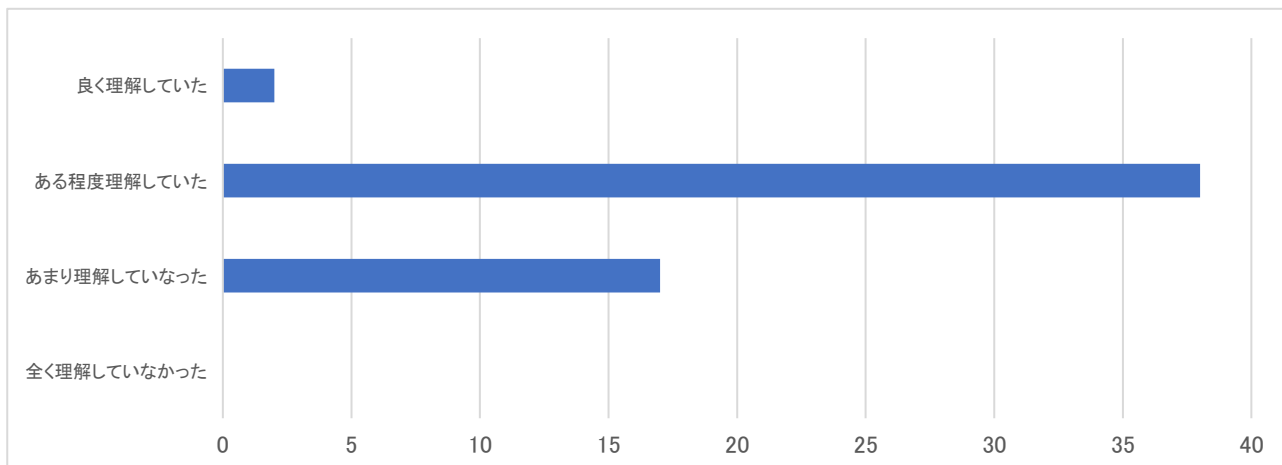


本調査の回答で多いものから順に、ある程度知っていた 41 人 (71.9%)、聞いたことがある程度 12 人 (21.1%)、良く知っていた 4 人 (7.0%) であった。

「ある程度知っていた」と回答した割合が約 7 割を占め、高等専修学校の基本的な認知度は一定水準に達していることがわかる。ただし、「良く知っていた」とする回答が少なく、具体的な学校の特徴やメリットが十分に理解されていない可能性がある。学校側から中学校への情報提供をさらに充実させることで、より深い認知と理解を促進することが期待される。

● 高等専修学校の目的や特徴について理解していましたか？

1 良く理解していた	2	3.5%
2 ある程度理解していた	38	66.7%
3 あまり理解していなかった	17	29.8%
4 全く理解していなかった	0	0.0%

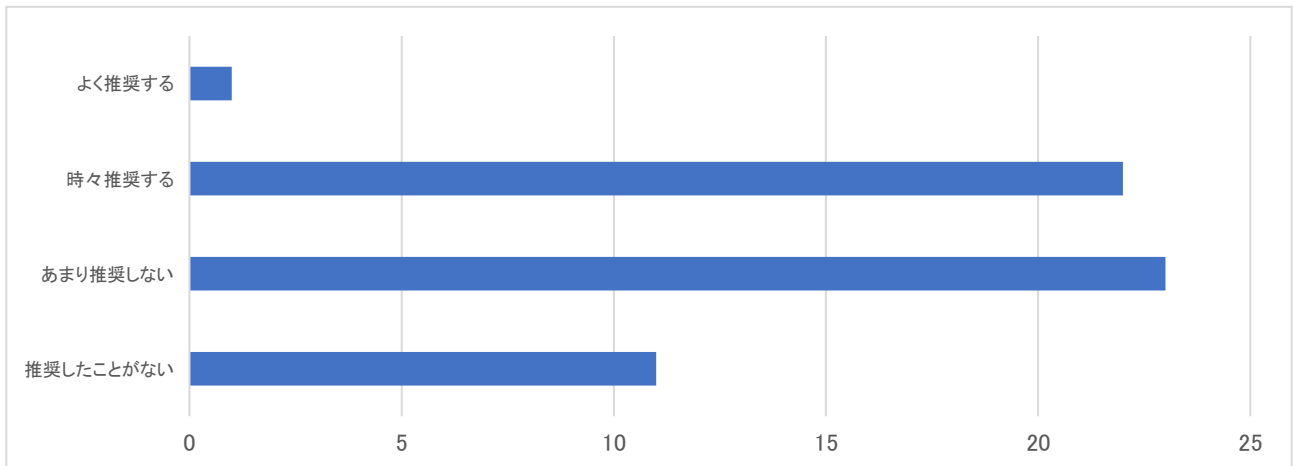


本調査の回答で多いものから順に、ある程度理解していた 38 人 (66.7%)、あまり理解していなかった 17 人 (29.8%)、良く理解していた 2 人 (3.5%) であった。

「ある程度理解していた」と回答した割合が約 7 割を占める一方で、「あまり理解していなかった」という回答も約 3 割に上る。この結果は、高等専修学校の基本的な情報は中学校側に共有されているものの、目的や特徴に関する詳細な理解が十分には進んでいないことを示している。

● 高等専修学校の進学先として、中学生に進路指導で推奨することはありますか？

1 よく推奨する	1	1.8%
2 時々推奨する	22	38.6%
3 あまり推奨しない	23	40.4%
4 推奨したことがない	11	19.3%



本調査の回答で多いものから順に、あまり推奨しない 23 人 (40.4%)、時々推奨する 22 人 (38.6%)、推奨したことがない 11 人 (19.3%) であった。

「時々推奨する」という回答が一定数ある一方で、「あまり推奨しない」「推奨したことがない」という消極的な回答が過半数を占めている。この結果から、高等専修学校を進学先として強く薦めるための十分な情報が中学校側に伝わっていない可能性がある。学校の魅力や進学後のメリットを具体的に示す資料や説明会が、進路指導において効果的に活用されることが必要である。

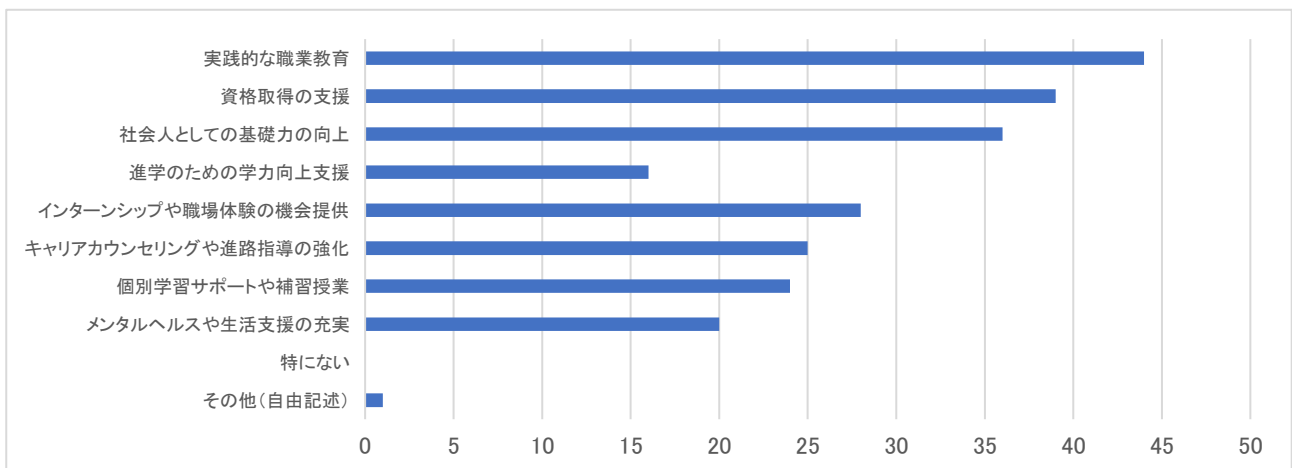
● 高等専修学校が生徒にどのような教育やサポートを提供するべきだと考えますか？

複数選択可

1 実践的な職業教育	44	18.9%
2 資格取得の支援	39	16.7%
3 社会人としての基礎力の向上	36	15.5%
4 進学のための学力向上支援	16	6.9%
5 インターンシップや職場体験の機会提供	28	12.0%
6 キャリアカウンセリングや進路指導の強化	25	10.7%
7 個別学習サポートや補習授業	24	10.3%
8 メンタルヘルスや生活支援の充実	20	8.6%
9 特にない	0	0.0%
10 その他(自由記述)	1	0.4%

自由記述内容：

- ・ 強みとすること、力を入れている活動



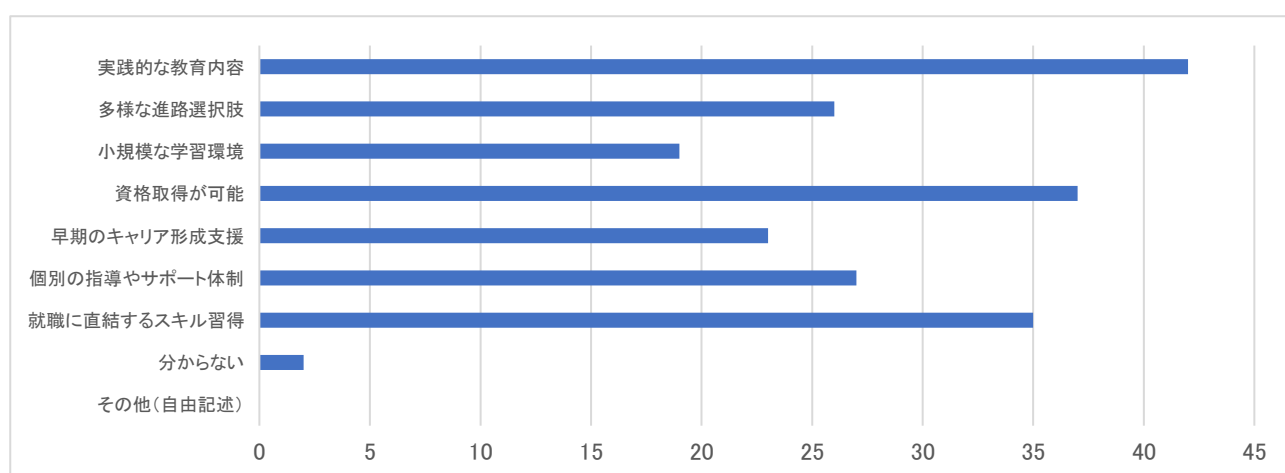
本調査の回答で多いものから順に、実践的な職業教育 44 人(18.9%)、資格取得の支援 39 人(16.7%)、社会人としての基礎力の向上 36 人(15.5%)であった。

「実践的な職業教育」や「資格取得の支援」が中学校から期待されている点から、高等専修学校には具体的かつ実用的なスキルを提供する役割が求められている。また、「社会人としての基礎力の向上」や「インターンシップの提供」といった回答も多く、生徒が社会に出る準備を整えるための包括的な支援が重視されていることがわかる。これらの期待に応えるカリキュラムの充実が必要である。

● 高等専修学校の魅力についてどのような点が挙げられますか？

複数選択可

1 実践的な教育内容	42	19.9%
2 多様な進路選択肢	26	12.3%
3 小規模な学習環境	19	9.0%
4 資格取得が可能	37	17.5%
5 早期のキャリア形成支援	23	10.9%
6 個別の指導やサポート体制	27	12.8%
7 就職に直結するスキル習得	35	16.6%
8 分からない	2	0.9%
9 その他(自由記述)	0	0.0%



本調査の回答で多いものから順に、実践的な教育内容 42 人(19.9%)、資格取得が可能 37 人(17.5%)、就職に直結するスキル習得 35 人(16.6%)であった。

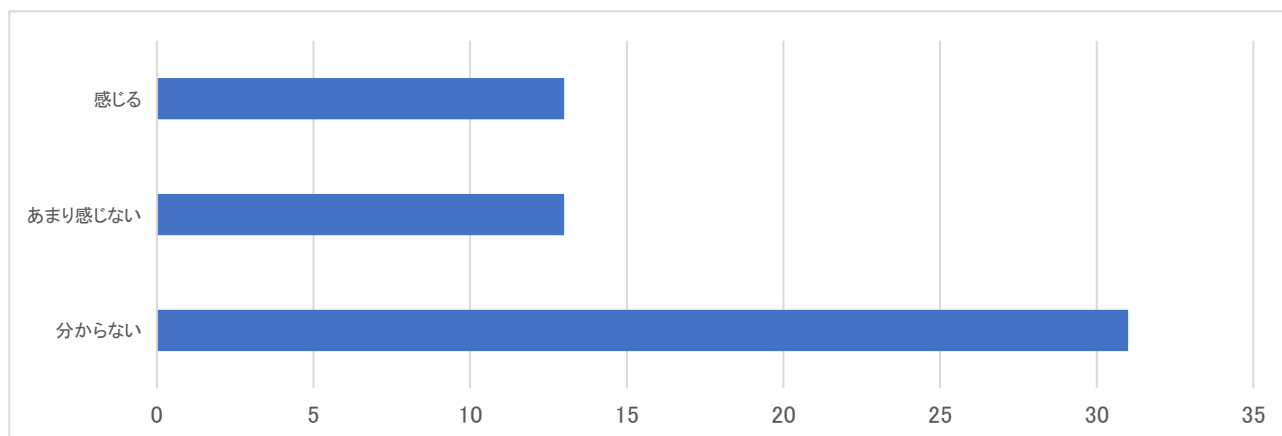
「実践的な教育内容」や「資格取得が可能」という回答が上位を占めており、これらが高等専修学校の主要な魅力と認識されていることがわかる。一方、「小規模な学習環境」や「早期のキャリア形成支援」については認知度が低めであることから、これらの特徴をより積極的にアピールする必要がある。具体的な事例や成果を示すことで、生徒や保護者への魅力をさらに高めることができる。

● 高等専修学校に対する課題や改善すべき点があると感じますか？

1	感じる	13	22.8%
2	あまり感じない	13	22.8%
3	分からない	31	54.4%

具体的な課題記述内容：

- ・ 沖縄では、学費の面で躊躇する家庭がある。
  - ・ 低所得世帯の生徒への支援を含め、授業料等への支援について
  - ・ 授業料（公立と比べて高い）、私立以外の公立の高等専門学校の充実
  - ・ 在学生や卒業生などが身近にいないため、より具体的な学校の状況や進路状況、その後の活躍を知ることができず、高等専修学校を生徒に強く進めることができない。
  - ・ 絶対数が少ない為、通学が厳しい。
  - ・ スポーツ系の充実は良いことだけど、もっと将来的な進路や資格など、よりキャリアアップに繋がる宣伝をして欲しいと思います。スポーツ系の推薦が強いイメージがあります。
  - ・ パンフレットや募集要項は、学校に届くが、中学生へどのような学校であるかを周知させることはできていないと思う。
  - ・ 個々の対応が可能であると思うので、生活習慣の見直しや学び直しの対応をお願いしたい
  - ・ 高校卒業資格取得と専門技術を同時に得ることの厳しさなどをきちんと説明して欲しい。
- 授業料の高さ
- ・ 中学校への情報提供、中学生への積極的アプローチ。
  - ・ 授業料が県立高校と比べて高い。沖縄本島にいる子どもが通いやすいよう各地区に一校くらい設置されてもよい。本中学校からは通いにくい場所にあるため進路の選択肢から外れる傾向がある。
  - ・ 中学校側への進路選択の1つとしての情報提供をもっと積極的にあってもよいと思う。学費が高いイメージがあり、保護者が敬遠しがちです。県立高校並みとは言わないが、学費が軽減できるような奨学金制度などの工夫や、積極的な情報提供があればと思う。
  - ・ 高等学校に比べて、学費が高いイメージがあります。そのため、家庭の事情等を考えると安易にすすめることができません。



本調査の回答では、分からない 31 人 (54.4%)、感じる、あまり感じないがともに 13 人 (22.8%) であ

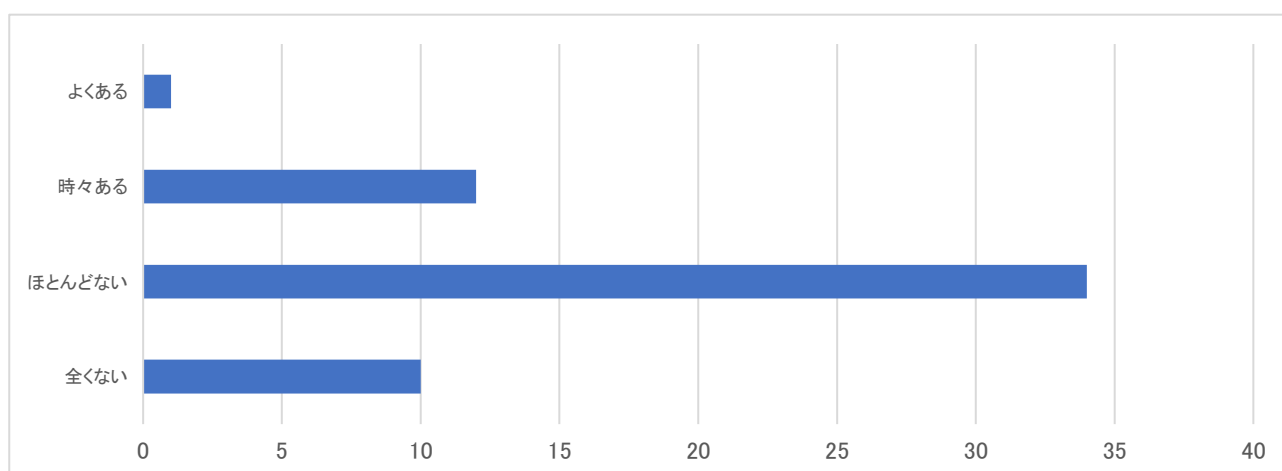


った。

「感じる」と回答した割合が一定数存在する一方で、「分からない」という回答が半数以上を占めている。この結果は、高等専修学校の具体的な課題や改善点が中学校側で十分に認識されていないことを示している。課題として挙げられた「学費の高さ」や「情報提供の不足」に対応する取り組みが必要であり、中学校との連携強化や情報発信の工夫が求められる。

● 生徒や保護者から高等専修学校について質問や相談を受けることはありますか？

1 よくある	1	1.8%
2 時々ある	12	21.1%
3 ほとんどない	34	59.6%
4 全くない	10	17.5%

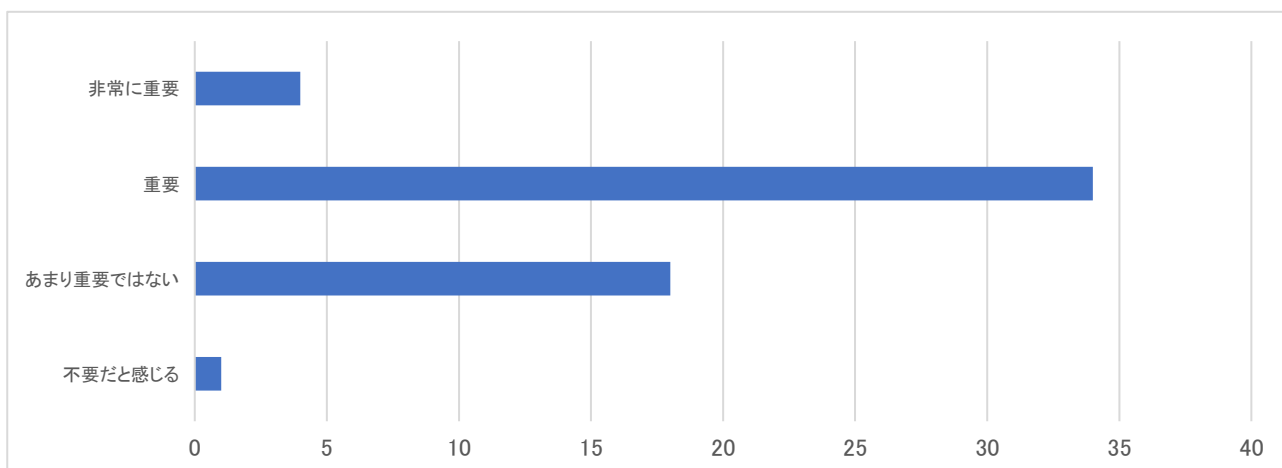


本調査の回答で多いものから順に、ほとんどない 34 人 (59.6%)、時々ある 12 人 (21.1%)、全くない 10 人 (17.5%) であった。

「ほとんどない」や「全くない」という回答が約 8 割を占めており、高等専修学校についての質問や相談が中学校で活発に行われていない現状が示されている。この結果は、高等専修学校が進路選択肢としてまだ十分に認知されていない可能性を示唆する。学校側が中学校や保護者に対し、より具体的で魅力的な情報を提供することで、進路相談の場における高等専修学校の存在感を高められると考えられる。

● 中学校として、高等専修学校との連携や協力を強化することは重要だと思いますか？

1 非常に重要	4	7.0%
2 重要	34	59.6%
3 あまり重要ではない	18	31.6%
4 不要だと感じる	1	1.8%



本調査の回答で多いものから順に、重要 34 人 (59.6%)、あまり重要ではない 18 人 (31.6%)、非常に重要 4 人 (7.0%) であった。

「重要」または「非常に重要」と回答した割合が約 7 割を占めており、中学校側が高等専修学校との連携を重要視していることがわかる。この結果は、進路指導において高等専修学校が一定の役割を果たすべき存在として認識されていることを示している。今後、定期的な情報共有やイベント等を通じて連携を強化することで、双方にとってのメリットがさらに大きくなることが期待される。

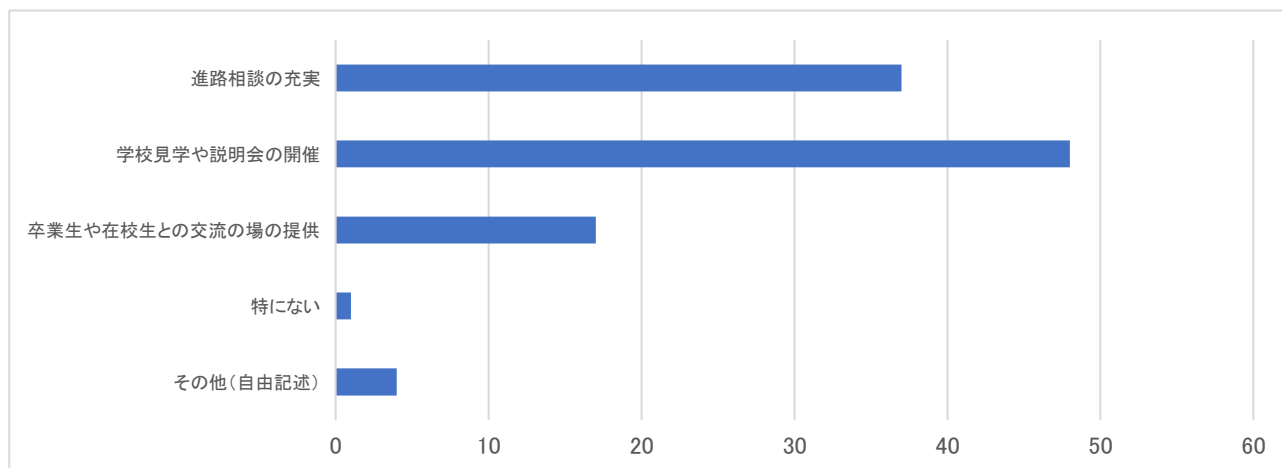
● 高等専修学校の進学を希望する生徒に対して、中学校としてどのような支援が必要だと考えますか？

複数選択可

1 進路相談の充実	37	34.6%
2 学校見学や説明会の開催	48	44.9%
3 卒業生や在校生との交流の場の提供	17	15.9%
4 特にない	1	0.9%
5 その他(自由記述)	4	3.7%

自由記述内容：

- ・ 職員間の情報共有
- ・ 体験的な説明会
- ・ 卒業までにかかる費用
- ・ 専修学校についての知識を提供すること



本調査の回答で多いものから順に、学校見学や説明会の開催 48 人 (44.9%)、進路相談の充実 37 人 (34.6%)、卒業生や在校生との交流の場の提供 17 人 (15.9%)であった。

「学校見学や説明会の開催」が最も多く選ばれていることから、進学希望者が学校の具体的な情報を得られる機会を求めていることが分かる。また、「進路相談の充実」が次いで多く、中学校側でのきめ細やかな進路指導の重要性が示唆されている。さらに、「卒業生や在校生との交流の場の提供」も一定の割合を占めており、実際の経験者からの情報共有が進学希望者にとって有益であると考えられている。

これらの結果から、高等専修学校と中学校が連携し、見学会や説明会の頻度を増やすこと、卒業生による進路アドバイスを提供することなどが、進学希望者の支援に有効であると考えられる。特に保護者を含めた説明会を実施することで、進学への理解をさらに深めることが期待される。

- 高等専修学校に期待する役割や、今後の発展に対するご意見をお聞かせください。
  - ・ 何が有利なのか、どんな考えをまた生徒が良いのかがあると、案内しやすい
  - ・ 生徒が社会で活躍できる技術的な力、コミュニケーション力を育成できる場となることを期待します。
  - ・ 高等学校に進学することが「普通」だった時代から、高等専修学校を含め多様な特色をもつ学校が増え、進路選択の幅が広がってきたため、学校独自のアピールが必要になっていると思います。中学校としては、幅広く各学校の情報を生徒に伝えているつもりだが、全ての学校の特色をしっかりと伝えられることは難しいため、高等専修学校の良さ・各学校の特色を生徒にも伝わり関心を持ってもらえるといいと感じます。
  - ・ 高等専修学校についての情報があまりなく、よくわかっていない部分があるため、全日制高校・定時制高校・通信制高校との違いがもう少しわかりやすい資料があると、中学生・保護者にもアナウンスがしやすくなるのかと思いました。
  - ・ 数人、KBC 学園へ進学した生徒がいてとてもイキイキ生活してました。ありがとうございます♪ 発展のためには、やはり生徒や保護者への地道な情報提供が大事だと思います。以前、KBC さまから講師を派遣していただき、面接などの支援を頂きました。そのような活動が高等学院さまの発展へつながると思ってます。応援してます。
  - ・ 進路学習で、中学校卒業後の進路選択の 1 つとして高等専修学校もあることは紹介している。最近の生徒は普通科志望が多く、自分の進路決定を先延ばしにしている様に感じる。情報量が多くて逆に選択が難しくなっているのでしょうか。
  - ・ 今年度、たまたま、本校にて、私立・通信制の説明会を持つことができ、その際に KBC 学園様にもお越し頂きました。副校長の山下守先生が大変熱心に、生徒に向けてお話してくださいました。本校で、コロナ禍以降、欠席日数を気にして進学をあきらめがちな生徒にとっては特に希望の持てるお話だったと記憶しています。自分の特技や興味のあることを存分に活かせる、手厚く幅広い教育態勢に期待しています。その節は大変お世話になり、ありがとうございました。
  - ・ 高等専修学校に限らず、生徒に複数の進路を提示してあげたいが、これ以上は中学校の職員にその時間も精神的余裕もないのが現状です。
  - ・ 県立を希望する生徒がほとんどなので、高等専修学校の情報をなかなか得られていない状況です。一番は金銭面が気になります。その点での周知や何かしらのサポートがあると良いのではと思います。
  - ・ 高等専修学校が、高校中退者の問題を解決できるのではないかと思います。
  - ・ 現在の中学生は、高校進学についても多様な考えを持っていると感じます。必ずしも県立高校ではなく、私立の通信制を希望する生徒も増え、多様な進学に対する考えを持っていることから、専修学校も習得できる学習内容や資格取得などが生徒にも周知されれば、進学先の一つとして、考える生徒が増えると思います。また、学校になかなか登校できなかった生徒たちの進学先の一つになることも期待します。
  - ・ 沖縄県も段々と高等専修学校が増えているので、離島での学校説明会を開催出来ると良いかと思っています。

- ・ 実践的に職業スキルを学びたい生徒が進学する傾向にある学校というのが、高等専修学校の印象です。これまでのように、夢に向かって、または自分の適正にあった進学をする生徒の進路を支えてくださったらと思います。
- ・ 通信制を希望する生徒も多くなってきている中で、多様な進路選択が当然になってきていると感じます。今後高等専修学校を希望する生徒も増えていくと思うので、どのような資格がとれるか、進学先はどうなるかなど周知する場をもっと増やしていくべきだと感じます。
- ・ 生徒への経済的支援が充実していれば学校への進学を進めやすいと思います。
- ・ 将来のなりたい職業に直接的につながる大切な教育機関だと思うので、生徒や保護者へ魅力が伝わるような活動を、中学校と連携しながら頑張ってもらいたいと思います。
- ・ 高等専修学校は職業教育に特化しているイメージがあります。中学校の時点で将来の進路や職種を決定することは難しく専修学校へ進学すると将来の選択肢が狭まってしまうような気がします。それらの心配を軽減するようなカリキュラムがあると進路先の1つとして中学校からも提示しやすいです。
- ・ 担当に専修学校についての知識がなく、生徒へ説明ができないため困っている。沖縄県内の高等専修学校の一覧と学習内容、資格などがあると説明もしやすい。
- ・ 特になし
- ・ 特になし

回答には、「生徒が社会で活躍できる技術力やコミュニケーション力の育成」「中学校と連携した情報提供」「多様な進路選択肢の提示」など、多岐にわたる意見が見られる。また、「学費負担の軽減」や「中学生や保護者への積極的な周知」といった課題も指摘されている。

総じて、高等専修学校には、専門性の高い職業教育を通じて生徒の将来の選択肢を広げるとともに、経済的負担を軽減し、中学校との連携を強化する役割が期待されていることが分かる。また、具体的な進学や就職実績を示すことで、生徒や保護者に学校の魅力をより深く理解させることが求められる。

## 5. アンケート調査分析

### 1) 高等専修学校生徒向けアンケート分析

#### ① 学校選択の理由と認知度

「親・家族」が進学先選択における最も大きな影響要因(35.5%)となっている。一方、「インターネット・SNS」も11.5%と一定の割合を占めており、デジタル媒体が情報源として重要性を増していることがわかる。

「学校の雰囲気や環境がよかった」(18.3%)や「専門的な知識・技能を学びたかった」(16.8%)といった具体的な学校選択の動機が生徒にとって重要な要素となっている。

#### ② 教育内容と満足度

普通科目に対して「とても面白い」または「まあまあ面白い」と回答した生徒が78.3%に上り、一定の興味を引いていることが示されている。一方で、「あまり面白くない」や「全く面白くない」と感じる生徒も21.7%存在しており、授業内容の改善が課題として挙げられる。

専門科目では「とても面白い」または「まあまあ面白い」と回答した生徒が84.3%であり、専門分野の学びが生徒に強い魅力を持っていることが確認される。

#### ③ 学校環境とサポート

生徒の友人関係については「とても良い」または「まあまあ良い」と回答した割合が95.3%に達し、学校生活において人間関係が良好な環境が整備されていることがわかる。

学校設備についても9割以上の生徒が「とても良い」または「まあまあ良い」と評価しており、設備が学習環境として一定の水準を満たしている。

#### ④ 課題として挙げられる点

「学費が高い」「校舎が狭い」といった物理的な環境に関する課題が指摘されている。

「部活や行事が少ない」「期待と異なる内容」といった生徒の不満が一部見られる。

### 2) 沖縄県内中学校アンケート分析

#### ① 高等専修学校の認知度と推奨状況

中学校教員の71.9%が「ある程度知っていた」と回答しているが、「良く知っていた」と回答したのは7.0%に留まり、高等専修学校に関する情報の詳細な共有が進んでいない。

進路指導において「時々推奨する」が38.6%である一方、「あまり推奨しない」または「推奨したことがない」という否定的な回答が過半数を占めている。

#### ② 期待される役割

「実践的な職業教育」(18.9%)や「資格取得支援」(16.7%)が高等専修学校に対して期待されている主要な役割として挙げられている。

「進学のための学力向上支援」(6.9%)や「個別学習サポート」(10.3%)も一部で求められており、生徒の進路多様性を支える包括的な教育が求められる。

### ③課題として挙げられる点

学費負担の高さが進学の障壁として挙げられている。また、中学校教員の間で高等専修学校の特徴や具体的な内容が十分に理解・共有がされていない。

中学校と高等専修学校の間においても情報共有が不十分であり、進路指導における活用が限定的となっている。

## 3) アンケート結果から見える課題とその解決策

### ①認知度向上

高等専修学校の認知度向上は急務である。中学校教員の71.9%が「ある程度知っていた」と回答しているものの、「良く知っていた」と回答した割合はわずか7.0%にとどまっている。進路指導においても、「時々推奨する」が38.6%である一方、「あまり推奨しない」および「推奨したことがない」という回答が59.7%に上る現状が示されている。

高等専修学校が持つ独自の強みや教育内容、卒業後の進路実績について、教員や保護者へ具体的な情報を届ける必要がある。特に、進学後の具体的な進路事例や成功体験を示すことで、学校に対する信頼性を高め、進路選択肢としての魅力をアピールできる。また、インターネットやSNSを活用した情報発信の強化により、生徒や保護者自身が学校を調べやすい環境を整備することも重要である。

保護者向けイベントや中学校との連携イベントの開催頻度を増やすことも有効である。アンケート結果から、進学先選びにおいて「親・家族」が重要な役割を果たしていることが分かるため、保護者が高等専修学校の良さを理解できる場を提供することで、進学希望者の増加が期待できる。

### ②多様な学びの保障

専門的な学びが高等専修学校の大きな魅力となっているが、普通科目の授業内容や学力向上支援についても充実させる必要がある。生徒アンケートでは、「普通科目がとても面白い」または「まあまあ面白い」と回答した生徒が78.3%であり、多くの生徒が一定の満足感を得ている一方で、「あまり面白くない」または「全く面白くない」と回答した生徒も21.7%存在している。普通科目の学びをさらに魅力的なものにするためには、具体例や実生活での応用を取り入れた授業設計が求められる。

また、専門科目に関しては、「とても面白い」または「まあまあ面白い」と回答した生徒が84.3%に達しており、高い満足度を得ている。この満足度をさらに向上させるためには、地域企業や専門家との連携を強化し、より実践的で応用力の高い授業内容やインターンシップを取り入れることが有効である。特に、地域特性に応じた専門性を育むインターンシッププログラムを構築することで、生徒のキャリア形成に寄与できる。

### ③セーフティネット機能の充実

高等専修学校は、不登校経験者や生活習慣の改善を必要とする生徒にとって重要なセーフティネットとして機能している。生徒アンケートの自由記述には、「学校に通えるようになった」、「生活リズムが整った」といったポジティブな意見が多く見られる。しかし、心理的支援や経済的支援のさらなる充実が必要である。

学費負担の軽減に関しては、中学校教員アンケートでも「学費の高さ」が進学の障壁として挙げられている。奨学金制度の周知・拡充や授業料減免制度の導入により、経済的に困難な家庭の生徒でも安心して通える環境を整備する必要がある。また、心理的支援体制の強化として、常駐カウンセラーを配置し、生徒が抱える不安や悩みに迅速に対応できる体制を構築することが求められる。

さらに、部活動や行事の充実もセーフティネット機能を強化する一環として重要である。アンケートでは「行事が少ない」といった声が見られるため、生徒が自主的に参加できる活動を増やし、学校生活への満足感を高める必要がある。



## 第 2 部:ヒアリング調査

### 1. 趣旨・目的

高等専修学校には「認知度向上」、「さらなる多様な学びの保障」、「セーフティネット機能の充実」という 3 つの課題がある。また、高等専修学校には職業教育機能を強化することが求められている。3 つの課題解決及び職業教育機能強化に向け、先導的モデルを構築するための基礎資料とするためアンケート及びヒアリング調査を実施する。調査結果をもとに高等専修学校に通う生徒、高等専修学校教員、県内中学校、高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れる企業の実態を把握し、構築モデルの方向性を取りまとめる。

### 2. ヒアリング調査概要

#### 1)ヒアリング調査概要

本調査は、文部科学省委託事業「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築事業」の一環として実施した。調査目的は、高等専修学校からインターンシップ等に生徒を送り出す教員側と受け入れる企業・団体側にそれぞれヒアリング調査を実施し、キャリア教育及びインターンシップの現状と課題を分析、把握することで、構築モデルの方向性を取りまとめることである。以下 2 種類のヒアリングを実施した。

#### 2) 高等専修学校教員ヒアリング

対 象	高等専修学校(2校)に所属する教員 ・学校法人KBC学園 KBC高等学院 ・学校法人学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校
実施時期	・学校法人KBC学園 KBC高等学院:令和6年12月12日 ・学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校:令和6年12月9日
調査項目	①職業教育への取り組み状況 ②職場体験の目的と期待 ③インターンシップ実施上の課題 ④企業側に求めるサポートや配慮 ⑤職場見学とインターンシップの効果 ⑥キャリア教育の課題 ⑦今後のインターンシップ推進の方向性
調査方法	事前に質問紙(Web フォーム)により質問項目に回答いただき、その回答をもとにヒアリングを実施

### 3) インターンシップ受入れ企業・団体ヒアリング

対 象	<p>学校法人KBC学園 KBC高等学院の生徒を受け入れ、インターンシップを実施している企業・団体 15 社          (オンラインヒアリング 8 社、ヒアリングシートでの回答 7 社)</p>
実施時期	<p>令和 6 年 11 月 14 日～令和 6 年 12 月 12 日  <b>【オンラインでのヒアリング実施企業・団体名】</b>          1) エーススポーツクラブ:令和 6 年 11 月 22 日          2) 有限会社スポーツグチ:令和 6 年 11 月 26 日          3) 株式会社モビイクス:令和 6 年 11 月 26 日          4) めぐみの森保育園:令和 6 年 12 月 2 日          5) カワサキプラザ那覇:令和 6 年 12 月 4 日          6) 一般社団法人ツナグミライ:令和 6 年 12 月 4 日          7) 沖縄こどもの国:令和 6 年 12 月 9 日          8) 防衛省 自衛隊:令和 6 年 12 月 12 日          9) ヒアリングシートで回答いただいた企業・団体名】          ・スポーツデポ天久店          ・マクドナルド真嘉比古島店          ・北京堂鍼灸首里いじゅ治療院          ・株式会社ロワジール・ホテルズ沖縄          ・まほろば鍼灸接骨院          ・犬ワンダフル          ・ジスタス那覇</p>
調査項目	<p>① インターンシップで受け入れた際にどんな仕事をお願いしているか          ② インターンシップ受入れの目的について          ③ 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り          ④ 安全面や配慮点について          ⑤ 受け入れ上の課題や困難について          ⑥ 高等専修学校側に求めるサポートについて          ⑦ インターン生に期待するスキルや態度          ⑧ インターンシップ実施による成果          ⑨ 今後のインターンシップ受入れに対する方針、考え</p>
調査方法	<p>事前に質問紙(Web フォーム)により質問項目に回答いただき、その回答をもとにヒアリングを実施</p>

### 3. 高等専修学校教員ヒアリング

#### 1) 学校法人KBC学園 KBC高等学院

日程	令和6年12月12日(木)11:00～11:50
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
学校名	学校法人KBC学園 KBC高等学院
担当者	教務部長 伊佐 尚子

##### ①職業教育への取り組み状況

KBC 高等学院では、1年生から3年生にかけて、総合的な探求の時間を活用し、職業教育を継続的に進めている。職業教育の内容としては、基礎的な知識やマナー、コミュニケーション能力を身につける授業が実施されており、進路活動として学校選びやハローワークでの職種の調査が行われている。また、生徒の特性に応じてデジタル系とスポーツ系に分けたクラス編成を行い、生徒の興味や適性に合わせた教育環境を整えている。

さらに、インターンシップに向けた準備として、挨拶や礼儀作法、敬語などのマナー教育を重点的にを行い、社会に出るための基本的なスキルを指導している。このように、職業教育のカリキュラムは生徒の成長に応じて段階的に進化しており、社会人としての基盤を築く取り組みが充実している。

##### ②職場体験の目的と期待

職場体験やインターンシップでは、生徒が「責任感」「礼儀作法」「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的としている。これに加え、臨機応変に対応する力や、自分の意思で積極的に行動する姿勢を養うことが期待されている。

また、仕事に対する考え方を深め、好きなことだけでなく、やりたくないことにも責任を持って取り組む重要性を理解させることも目的の一つである。これにより、生徒は仕事の現実に触れ、社会人としての心構えを育むことができるとしている。

##### ③インターンシップ実施上の課題

インターンシップを実施する際には、企業との調整やマッチングが課題となっている。特に、企業が受け入れを引き受けるまでの調整に多くの時間と労力が必要である。また、生徒が希望する企業に配置されない場合には、モチベーションが低下するケースがあり、適切なマッチングが不可欠である。

さらに、生徒の中にはインターンシップの意義を十分に理解せず、消極的な態度を示す者もいる。このような場合には、事前教育の強化や、インターンシップの目的を生徒と共有する機会を増やすことが求められている。

#### ④企業側に求めるサポートや配慮

インターンシップにおいて、企業には実体験を重視したプログラムの提供が求められている。具体的には、単純作業に終始するのではなく、企業理念や仕事の意義を説明し、広範囲な業務を体験させてもらえることを期待している。また、生徒が現場で安全に働けるよう、安全管理や適切な指導体制を整える必要がある。

さらに、企業と学校が連携して事前に業務内容を確認し、プログラムを調整することで、生徒の成長に直結する学びの場を提供できると考えている。

#### ⑤職場見学とインターンシップの効果

インターンシップを通じて、生徒が仕事の現実や自分の適性を理解し、職業観が変化する事例が報告されている。例えば、バイクショップでモデル体験をした生徒は、自信を持つきっかけを得た。また、インターンシップを通じて、仕事の大変さや重要性を実感し、自発的に行動する態度を身につけた生徒もいる。

卒業後に実習経験を振り返り、自身の成長を実感するケースもあり、インターンシップが生徒の将来に与える影響は大きいと感じている。

#### ⑥キャリア教育の課題

キャリア教育を進めるうえで、教員の指導力や知識の差が課題として挙げられている。また、実体験を重視したカリキュラムが不足していることや、生徒の経験不足から想像力が広がらないことも問題とされている。

このような課題を解決するためには、教員の指導力を向上させる研修や、企業や業界に関する知識の習得が必要である。また、実体験を通じて生徒が学べる機会を増やすための新しいカリキュラムの導入も重要である。

#### ⑦今後のインターンシップ推進の方向性

今後のインターンシップ推進に向けて、学校では職業教育指導の専門家(外部機関)による授業の導入はできないかと思っている。また、インターンシップを全教員、全教科が関与する横断的な授業として位置づけ、全体的な取り組みを強化すべきと感じている。

さらに、受け入れ企業の多様化を図り、より幅広い業種でのインターンシップ機会を提供することが必要である。これにより、生徒が実社会での経験を通じて多様な学びを得られる環境を構築し、職業教育の充実を目指したい。

## 2) 学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校

日程	令和6年12月9日(月)16:15～17:00
ヒアリング方法	オンライン(Zoom 使用)
学校名	学校法人有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校
担当者	副校長 藤井 智人

### ①職業教育への取り組み状況

当校では職業教育の一環として、1年生時に職業調べを行い、生徒が興味のある職業や進学先について理解を深める機会を提供している。職業調べでは、進学を希望する生徒に向けて大学や専門学校の情報も含めた調査を行い、視野を広げる取り組みが行われている。また、系列の9つの専門学校を見学し、希望する学科やコースの説明を受けるとともに、専門学校の授業を一部体験する「高専接続連携授業」を実施している。この取り組みにより、専門学校の授業を受けることで、生徒は職業や進学についての理解を深めている。

加えて、2年生では具体的な分野の授業体験(例: スポーツトレーナー、ネイルアート、動物看護など)を通じて職業に対する興味をさらに高め、3年生ではオープンキャンパスの参加や進路決定を支援する取り組みを行っている。これらに加え、総合学習や商業学習を通じて、ビジネスマナーやコミュニケーション能力を高める教育も実施している。

一方で、インターンシップについては現時点では実施していないが、卒業生や地元企業との連携を強化し、受け入れ先の開拓を進めたいと考えている。多忙な教育現場や受け入れ先確保の課題があるものの、今後の導入を目指して準備を進めたい。

### ②職場体験の目的と期待

職場体験を通じて、生徒が「働く」ことの意義や社会的・経済的自立を実感することが期待されている。この取り組みによって、生徒が自分の目指すことを具体化したり、自信を持つきっかけとなると考えている。例えば、スポーツ好きな生徒がストレッチの体験を通じてスポーツトレーナーを志したり、歯科衛生士を目指すきっかけを得たりするなどの可能性がある。

また、職場体験においては、生徒の特性に応じた事前準備や情報共有が重要とされている。学校側では、受け入れ先に生徒の個性や行動について説明し、適切な体験内容を調整することで、より効果的な学びが得られるよう配慮することが求められる。このような事前の取り組みにより、生徒の社会性や職業意識の向上が期待される。

### ③キャリア教育全体の課題

当校が抱えるキャリア教育の課題の一つに、生徒の社会経験や職業意識の不足がある。不登校傾向にあった生徒が7割以上を占めており、社会性を身につける機会が限られている。また、キャリア教育が単発的な活動に留まりがちである点も課題とされている。

この状況に対し、学校では「1年生で職業調べ、2年生で専門分野の授業体験、3年生で進路決定支援」という体系的な取り組みを構築し、継続的かつ段階的に進路意識を高める計画を進めている。今年度は試験的にCGアニメーションコースの授業を専門学校と連携して実施するなど、新たな取り組みを進めている。この取り組みにより、生徒が進路選択をより現実的かつ具体的に考える機会が増えることが期待されている。

### ④今後のインターンシップ推進の方向性

インターンシップ推進に向けては、卒業生や地元企業との連携を活用した受け入れ先の開拓が必要になると考えられる。卒業生が起業した会社や学校に出入りする業者との関係を活用することで、受け入れ先が見つけられると考えている。さらに、地元企業やロータリークラブなどの地域ネットワークを活用し、多様な業種での体験を可能にする計画が進められるのではと思っている。この取り組みによって、生徒の職業選択の幅が広がり、実社会での経験を積むことで、職業教育が一層効果的になることが期待される。

## 4. インターンシップ受け入れ企業・団体ヒアリング

### 1) エーススポーツクラブ

ヒアリング日程	令和6年11月22日(金)10:30～11:20
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	エーススポーツクラブ 沖縄県豊見城真玉橋 131-9
担当者名	城戸 勇祐様

① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

インターンシップに来た生徒にはインストラクターとして普段我々が行っている会員様への指導の補助をしていただきました。会員には大人の方や子どもがいます。具体的には最初の準備運動、体の動かし方の説明など、比較的簡単な内容を生徒に実践していただきました。

② インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

1つ目の意義・目的は「社会貢献」です。生徒に実社会を知る機会を提供することにより、将来のキャリア選択や地域活性化に貢献し、地域の企業や組織の協力を通じて、地域社会の豊かさを創出することにもつながると考えています。そして、2つ目は「人材育成」です。若い世代が実社会に触れることで、社会で必要とされるスキルや責任感を養う機会を提供します。インターン参加者が将来の進路を見出し、長期的な人材育成に貢献する取り組みを目的としています。

③ 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

初日に目標設定を行い、インターン終了時には自己評価と担当者評価を実施。達成度を振り返り、成長を実感できるようサポートしています。

なお、今回受入れした生徒は二人とも「コミュニケーションを積極的にとる、積極的に行動をする」ということを目標設定していました。生徒たちに目標に対してどうだったか聞いてみると、「しっかりと自分なりにできた」と言っており、我々も会員様からヒアリングという形で、「高等専修学校の生徒はどうでしたか」と伺ったら、「お話ししてくれるし、笑顔も素敵だったよ」という回答でした。目標設定したことで、しっかりと具体的にその目標に向かって進めたと思っています。

④安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

精神的な負担を軽減するため、定期的に気持ちを話せる場を設け、業務や人間関係の不安を解消できるようにしています。

インターンシップ生に対して、この人が指導者というのではなく、我々はシフト勤務でレッスンごとに担当者が変わっていくので、そこにインターンシップ生を当てはめていくようになります。指導者はレッスンごとに変わりますが、スタッフ間で申し送りをして切れ目なく、インターンシップ生の対応をしています。

なお、今回の3日間のインターンシップで10～15名のスタッフと関わりがあったと思います。今回受け入れた生徒はコミュニケーション能力が高かったです。お客様や職員とも特に区別なく、本人から話してくれたり、お客様や職員と話をしても笑顔で話せたり、非常に良かったと思います。

⑤受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

インターンシップ生へのサポートに多くの時間を割く必要があり、弊社の場合はシフト制で指導する担当が変わる場合もあるため、一貫した指導体制の維持が課題です。

⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

仕事に対して責任を持ち、困ったときには相談する姿勢を事前に身につけておいてほしいと思います。また、実務で個人情報扱う場合があるため、守秘義務を含む情報管理の重要性を理解するための教育をお願いしたいです。

話が最初の部分に戻りますが、目標設定をして、それをしっかりフィードバックすることが成長につながると思います。目標設定する際には、仕事のことに対して具体的に目標設定することで、生徒たちにもわかりやすく、また、仕事に対しても積極的に取り組めて、最後のフィードバックに向かって進んでいけるのではないかと感じています。

なお、インターンシップを受け入れていると、高等専修学校の生徒に限らず、語彙力の低下、知らない言葉が非常に多いのではないかと感じます。フィードバック時に非常に前向きな言葉を発していましたが、当社が朝礼で会社の理念を復唱することについて、この朝礼の方法について「すごい」と言っていました。「すごい」を具体的に言うように促すと、言葉が出てこなかったということがありました。頭の中に言葉はあるのかもしれませんが、それを実際にアウトプットできなかったのも、自分の頭の中にある考えを言語化できるような授業が学校であるといいと思いました。それは学業だけではなく、社会に出た時にも重要になるのではないかと、改めて思いました。



## 2) 有限会社 スポーツグチ

ヒアリング日程	令和6年11月26日(火)11:00~11:50
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	有限会社 スポーツグチ 沖縄県那覇市国場 1170-9
担当者名	野原 秀美様

- ① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

今回インターンシップで参加いただいた生徒には、挨拶と店舗の清掃、環境整備を主にしてもらいました。また、中学校の制服販売の準備で商品をセッティングしてもらいました。昼間にお客様が来店することは少ないため、接客をしていただく機会はあまりなかったです。

- ② インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

職種問わず、就業体験で、少しでも自分事で考えることができる機会になればと思っています。

受け入れる生徒のインターンシップは期間も短く、その短い期間の中で自分の将来のことについて具体的に考えるということは難しいと思います。でも、体験に来ることで自分の将来について考えられる機会となること、つまり自分事で考えることができる機会になると思います。

会社(企業)が成り立っていくためにはお客様からお金をもらって、売り上げていかないと働く人の給料にも繋がっていかない、会社が成り立っていかないとということを自分事として生徒が少しでも感じてもらえるようにということも意義や目的の1つとして位置付けています。

- ③ 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

難しい言葉を使わずに、生徒にも理解できる言葉を使って説明すること、仕事に関して一度にまとめてやってもらう内容を伝えるのではなく、少しずつ伝えて、1つの作業が終わった後に必ずチェックをして、きちんとできているか確認すること、スモールステップで仕事を依頼していくという点です。特に最初はインターンシップ生も緊張しているので、わからなければ声をかけてくださいと伝え、少しずつ作業してもらい、できたかどうかの確認をして、また次の仕事を依頼するという流れでやっています。

④安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

怪我など危険が伴う作業は依頼していません。コミュニケーションに関しては緊張している生徒に対し、学校生活について質問をして、ざっくばらんな雑談などをして、緊張をほぐしたりしています。

⑤受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

短期間の受け入れのため、体験的なことしかできず、限られた内容になってしまうことです。当社の主な業務として接客や商品管理があげられますが、短期間で接客や商品管理を体験してもらうことは難しいです。

⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

元気に挨拶ができ、自然に挨拶が出るような生徒を希望します。スタッフのイメージは会社のイメージに繋がります。スタッフのひとつひとつの行動がその会社の印象やイメージとなり、好感を持ってもらえたり、反対に持ってもらえなかったりということに繋がります。

当社で働く時にはお客様が伝えたいこと、求めていることを聞き取れる力、つまり聞く力が必要となります。お客様のニーズをしっかりと聞ける力です。情報機器の発達によって人間関係が希薄になる中で、コミュニケーションが取れる生徒が少なくなっていると感じるので、コミュニケーション力をしっかりつけてもらいたいと思います。

### 3) 株式会社モビイクス

ヒアリング日程	令和6年11月26日(火)17:00~17:50
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	株式会社モビイクス 沖縄県那覇市安里 381-1 ZORKS 沖縄
担当者名	平松 将様

- ① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

3日間のインターンシップで、1日目はアイスブレイクを最初に取り入れ、社会人がどういうことを考えて働いているのか、社長や経営陣がどういうことを考えているのか、また、給与の話、仕事が発生してから終わるまでの流れなどを説明させていただきました。2日目は実際の案件に携わっていただくことは難しいので過去の案件の画面を見ながら説明しました。また、職場見学をして、開発チーム、デザインチーム、運用チームから現場の実際の声を聞く機会を設けました。3日目は課題解決ワークショップをしました。「仕事は課題を解決するというのが根本にある」ということを伝え、インターンシップ生たちが学校の中で困っていることや不満・不便を聞き、問題の発生原因の分析と解決策の提示を資料に落とし込み、実際に相手に伝えるというプレゼンテーションまで実施しました。さらに、毎日終わりに当社で作った日報(エクセル)を作成し、担任の先生宛であるが、社会人のメールの書き方、フォーマットを教えて、毎日メール送信してもらいました。

- ② インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

「社会に出て働く」ということや、「今学んでいることがどのように活かせるのか」「世の中にはどのような仕事があり、どういう気持ちで働いているのか」を知る機会を与えるためということを意義・目的として位置付けています。

私個人としては社会貢献というよりも今後、将来を担っていくのは今の中高生になるので、その若い人たちが社会の動き、社会がどういうふうに変わっていったのかということインターンシップを通して感じた上で、どういう勉強をしていくか、就職活動をするのかを考えて欲しいと思います。今、いろいろな所で高いレベルの教育が施されるようになってきていると思うので、受け身ではなく、目的意識を持ってもらうとよくなるのではと。もともと教育の分野に私が興味を持っているという背景もあり、そう考えています。

### ③高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

インターンシップのメニューとして、難しすぎず、簡単すぎない内容を企画しました。先生や保護者以外の大人と交流する機会も少ないと思うため、対話ができるようなプログラムを入れています。

難しすぎず、簡単すぎないということで一番考えたのは、3日目の課題解決のワークショップで、当初はテーマも出さずにやろうと思いましたが、事前に担任の先生とお話させてもらった時に、どんな生徒が来るのかをお聞きし、「ある程度指示を出してあげた方がいい」とお伺いしました。トピックだけは決めておいて、難易度は進み具合などを見て調整できるように、1つ質問をして困ることがある場合はヒントを与えるなど、難易度をコントロールできるように工夫をしました。当初は資料を作って終了の予定でしたが、プレゼンをやってみるよう提案し、実際プレゼンしてもらいました。ここも難易度の調節を入れた部分です。

今回のプログラムの中で一番大人と接する機会が多かったのは職場見学です。見学して気になったことがあれば、質問は積極的にしてもらうことを事前に伝えていますが、質問が出づらい時もあります。そういう時は事前に幾つか気になる点についての質問を作っておき、例えば「一番のやりがいは何ですか」、「苦労したことは何ですか」などの質問のテンプレートを作っておけば、インターンシップ生からの発言が増えたのではという反省点があります。

### ④安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

アイスブレイクをしっかり行い、信頼関係を築けるようにすることです。

事前の挨拶時に私が忙しく、対応ができなかったため、初日にアイスブレイクをしました。私たちが自己開示した後、自分のことを喋らないといけないワークショップを2つ取り入れました。最初は緊張もしているし、自分からたくさんおしゃべりする生徒ではないと思ったので、無理やり喋らせることが逆にストレスを与えることになると思いました。

当社内での仕事においては怪我等の心配はなかったため、信頼関係を早急に築き、話しかけてもらえることを意識しました。

⑤受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

職場見学の時に当社の誰に喋ってもらおうかというところが少々難しいです。チームの中でもやっている仕事内容が違ったりするため、そこのアサインが難しいです。課題解決のワークショップの発表は別の社員に聞いてもらえればよかったのですが、その時、時間が取れる現場の社員がおらず、残念でした。

私が高等専修学校の生徒向けのインターンシップを企画するのが初めてだったので、生徒がどこまでできるか、何をさせるかというところで悩み、直前に内容変更したところもあります。アサインする社員が難しいというところもありますが、内容を確定させるところも難しかったです。ただ、私個人としては非常に学びが多く、次の機会があれば、アップデートできるかなと思っています。

⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

振り返りの日誌等に、積極的にインターンシップに参加しなければ完成しない設問を作るなど、例えば、1日に1回は必ず社員に質問をすることで、その質問を記載するなどそういった設問があったらいいのかなと思いました。自分がインターンシップ中に発信したことをまとめさせるようなものや、今日質問した質問を1個書きましょうなど。質問しないと埋まらない設問があればよいのではと思います。

#### 4) めぐみの森保育園

ヒアリング日程	令和6年12月2日(月)13:30~14:10
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	めぐみの森保育園 沖縄県豊見城市字与根520番地4
担当者名	山城 真梨恵様

- ① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

0歳児、1歳児、2歳児、3、4歳児の4クラスに分かれて、毎日違うクラスに入ってもらいながら、子どもたちや保育士と一緒に1日過ごしてもらいました。それぞれのクラスの発達の違いを学んでもらい、援助の仕方が変わってくることを体験してもらいました。

- ② インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

職場体験を通して、仕事の楽しさや大変さ、魅力を知ってもらい将来への進学先や進路選びに役立ててもらいたいと思っています。また、将来への不安も軽減することにも繋がると思います。

今回、生徒を受け入れて、子どもとどう接したらいいかということが難しかったと思うので、保育現場の大変さが伝わったかなと感じています。

- ③ 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

インターンシップ生の希望も聞いたうえで、色々なクラスに入ってもらい発達の違いや関わり方の違いを学んでもらいます。オリエンテーション時にどのクラスが一番気になるかを聞き、年齢が上のクラスを希望されたら、上のクラスを多めに入れて、1日だけ年齢が下のクラスに入ってもらおうというように対応して、全クラス順番に回るように工夫をしました。

- ④ 安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

災害時に備えて避難経路の説明をし、保育者の指示に従って避難するよう伝えていきます。心のケアについては毎日15分程度の実習生との振り返りを行い、困ったことや質問などに答えるようにしています。

- ⑤ 受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

保育実習生とは違い、どこまで声かけや仕事のお願いをしたら良いか戸惑うことがあります。

今回の受け入れでは、食事が終わった後の掃除やミルクを作ったりするという動きもしてもらいつつ、掃除をお願いしたほうがいいのか、子どもも見てほしいのだけれども、雑用的なことをお願いしたほうがいいのかという迷いがありました。

子どもたちと関わる時、最初は緊張気味で、声かけに戸惑う姿は見られましたが、子どもの様子を見ながら観察して、この子ならこれくらい声かけても大丈夫ってことを生徒自身で考えながら関わっている姿も見られました。

⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

実習時にマスク着用をお願いしていたのですが、生徒が忘れてしまっていたことです。

もう 1 点気になったことは、子どもたちとインターンシップ生が写っている写真がほしいとインターンシップ生からお願いされました。事前の確認がなく、子どもの個人情報の取り扱いもあるので、確認してから写真を渡すという話をしました。

## 5) カワサキプラザ那覇

ヒアリング日程	令和6年12月4日(水)12:00~12:40
ヒアリング方法	オンライン(Zoom 使用)
ヒアリング企業・団体名	カワサキプラザ那覇 沖縄県那覇市安謝 630-3
担当者名	平田様

### ① インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

インターンシップによって生徒にバイク業界に興味を持っていただくことができること、また、未来ある子どもたちのお手伝いができると思い、受け入れしました。

バイク業界の表は華やかに見えますが、裏ではお客様が身ひとつで乗る乗り物のため、安全に乗っていただけることが重要です。インターンシップでバイクに乗るには何が必要なのかを学んでいただき、安全安心にお客様にバイクに乗ってもらうために仕事があるのだということをお伝えしたいと思っています。

### ② 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

今回受け入れたインターンシップ生には最初、清掃やアパレルの陳列などお手伝いいただきました。陳列にも意味があることを伝えました。初日の午後、車両が港に着いたので、一緒に取りに行き、新しいバイクが納品される場所も体験していただきました。インターンシップ 2 日目は、プロのライダーさんの走りを見てもらうことを予定していましたが、ライダーさんの予定が合わなくなり、急きょ、SNS での発信のお手伝いでモデルをしてもらうことになりました。今の若い人にモデルをしてもらったことは私たちにとっても今までと違ったイメージを発信することができて、非常に良かったと感謝しています。

当社には購入目的ではなく、遊びに来る(覗きに来る)お客様も多いため、お客様と会話することも重要で、販売だけではないという話をしました。コミュニケーション能力が大事ということを経験の中で感じる事ができたと思います。

### ③ 安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

当社に来るまでの通勤時間は目が届かないため、生徒がどのようにして来るのか気を配りました。心のケアについてはインターンシップが始まった時は緊張していましたが、後半は談笑する場面もあり、イマドキの子で、肝が据わっていると感じました。



④受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

今回受け入れたインターンシップ生は最初、緊張していましたが、コミュニケーションが取れる生徒で、難しさを感じることはありませんでした。基本的なコミュニケーションや挨拶ができる生徒であれば難しさは感じないと思います。

⑤高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

高等専修学校側に求めるサポートとしては特になく、今の真っ白な状態で参加してくれて、企業から伝えることを素直に吸収してもらえればと思います。そのほうが私は教えやすいと感じています。

## 6) 一般社団法人ツナグミライ

ヒアリング日程	令和6年12月4日(水)13:00~14:00
ヒアリング方法	オンライン(Zoom 使用)
ヒアリング企業・団体名	一般社団法人ツナグミライ <a href="https://tsunagu55.com/">https://tsunagu55.com/</a>
担当者名	堂本 尚吾様

### ① インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

現代の高等専修学校の生徒がどのような社会人として生きていく未来を望んでいるのか、思い描いているのかを把握したいという思いがあり、受け入れようと思いました。社会が激動する中で働き方や仕事自体が多様化しています。生徒が働くことに対していいイメージではなく、働かなければならないという厳しいイメージを持っている感じもします。働くことはお給料をもらうことで厳しい面ももちろんありますが、悪いことばかりではない、いいこともたくさんあるということを感じ取ってもらいたいという思いがあります。

スポーツを通じて当法人の活動が社会に貢献しているということを生徒に知ってもらうこと、また、仕事の多様性のようなものを生徒が感じられる機会となればと思っています。

### ② 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

インターン生にとってプラスになるよう、当法人の強みを生かし、多様な社会人の働く姿を見たり、思いを聞けたりできるプログラムを準備しています。

スポーツ教室は法人として単独でやっているのではなく、地域の繋がり、つまり、自治体と連携協定を結んで実施しています。また、様々な地域でのイベントはステージを組む会社や音響照明の会社と協働しながら運営しています。当法人のメンバーだけが働いているのではなく、そこに関わる人たちの働き方が見られるというところが働き方の多様性などを感じられる点と思います。

### ③ 安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

業務用の車両で移動し、移動時の安全確保を行い、訪問先などには事前にインターン生とともに訪問すること、インターン生へ配慮していただきたい旨をお伝えしています。実際、今回の3日間のインターンシップでのフィールドワークの中で、社会人の方と会話をするという機会がありました。また、ラジオに出てもらおうという業務もあり、実際にインターンシップに対してどういう感想を持っているのかラジオで話してもらいました。人が見ている中でしっかりと発言できていました。

④受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

当法人は設立間もないため、営業やディスカッションが多くなることもあり、当法人が将来的に確実に行うであろう業務の体験をしていただけないことが難しいと感じる点です。

スポーツ教室といっても、ただスポーツを教えているというわけではなく、地域の課題に対して、例えばあの地域は子どもたちの体力が低いという課題に対して行っている、そしてそれを解決するためにスポーツ教室を行い、また、その課題が解決されれば、違う課題解決へ向かっていくというものになり、ずっと同じことを続けていくという、そうではない部分があります。

法人設立の目的である青少年の健全育成に対して、常にどんな課題があり、今連携している人たちと何ができるのか考えていくというのが、法人の今の姿です。商品があって、封入して営業をかけたという、単純作業のような仕事がなく、今後ずっとやっていくような業務を体験してもらえないところに、もどかしさがあります。

⑤高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

今回受け入れたインターン生には事前に履歴書を提出いただきました。インターンに対する意気込みなどを事前に確認させていただき、サッカー部に所属しているなどの小さな情報でも1つ2つあると受入れの対応が変わってきます。そういった情報を見せていただいたことはインターンシップの準備のしやすさに繋がり、生徒にとってもよいことだと思います。

## 7) 沖縄こどもの国

ヒアリング日程	令和6年12月9日(月)15:00～16:00
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	沖縄こどもの国 沖縄県沖縄市胡屋5丁目7-1
担当者名	中尾様

- ① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

チルドレンズミュージアムと動物園がある多角的な施設ですので、生徒にチルドレンズミュージアムである「WONDERMUSEUM」で展示物とお客さんの間をつなぐ役割としての接客、ワークショップなどの材料の準備を主に行っていました。

- ② インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

運営側に回ることによって生涯学習施設として本園の取り組みについて知っていただき、接客で得た気づきを通して若者の成長やキャリア形成を支援するだけでなく、地域や自然、動物園の裏側を知り、そのものの価値を高める相互的な関係を生み出す重要な取り組みとしています。また、より知って愛着を持っていただくことも目的とし、弊社の施設だけではなく、地域のこともあわせてお伝えしているので、自分が住んでいる地域に誇りをもっていただきたいと考えています。

- ③ 高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

初日に本園の取り組みの全体像について説明を行い、仕事を体験していただいています。少人数なので何かあれば気軽に話しやすい環境にしています。

- ④ 安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

日頃から安全面は配慮しておりますので、普段と同様の対応を行っております。機械や工具を使って作業をする場合もスタッフがつきっきりになって行っております。スタッフが常にそばにいますので、困っている場合は様子を見つつ、声をかけて一緒に取り組んでいます。

- ⑤ 受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

教育施設というのもあり、インターンとして裏側を体験する場合、実は普段提供する体験プログラムよりかなり高度なものとなっています。スタッフもつきっきりという点で、労力的にかなりかかっています。教育に関してはサポートさせていただきたいので受け入れさせていただいていますが、実際有料で提案させていただいているプログラムとのすみ分けの基準は学校教育になります。一度教育機関以外の団体からも要望がありましたが、誰でも無料というのは難しく、年間 100 件以上は来るので、どこまでやるかが全体としては課題とは感じています。今のところ中高生の皆さんに 1 日 3 名までの先着順で受け入れさせていただいているので、それ以上来た場合はお断りさせていただいております。今のところ問題はないですが、今後増加する場合の線引きは、今後の課題と考えています。

こちらも全体のことですが、依頼の仕方が団体さんによってばらつきがあり、情報をまとめるのに苦慮する部分があります。現在、独自の申し込み方法を検討しており、電子申請の形式でお送りいただく形になる予定です。やはり件数が多くなると難しく、団体向けのプログラムとしてもお仕事紹介などの講話プログラムであるので、そちらを活用くださいとご案内する場合があります。何も考えず、一様に裏側の仕事体験の要望をいただくこともあるので、労力と教育効果のせめぎ合いを課題と感じています。

#### ⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

挨拶と名前が言えること、スタッフが言ったことを理解していること、わからない場合は質問することです。

SNS に関して、基本的にはありませんが、今年度 1 件だけお昼休み中にバックヤードで撮影して SNS に載せた生徒がいました。学校の先生がすぐに謝りに来てくださいましたが、今は SNS の問題ぐらいかなと思っています。

また、実習生ではないですが、新しく勤め始めたばかりの 20 代の若い職員でメールが使えない方が多く、件名や宛先、自分の名前を記載せず、LINE のように送っているので、もし学校の授業であればメールの書き方などの基本的なメールのマナーも、教えていただけたらと思います。

## 8)防衛省 自衛隊

ヒアリング日程	令和6年12月12日(木)9:30～10:20
ヒアリング方法	オンライン(Zoom使用)
ヒアリング企業・団体名	防衛省 自衛隊 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 290 番地 9
担当者名	砂川様

- ① 高等専修学校の生徒をインターンシップで受け入れた際に生徒にどんな仕事をお願いしていますか。

自衛隊のインターンシップでは、高等専修学校の生徒が陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊を日替わりで訪問し、それぞれの業務や施設を体験的に学ぶ機会を提供しました。具体的には、陸上自衛隊では偵察活動で使用されるモトクロスバイクや車両整備の様子を見学し、航空自衛隊では戦闘機や地对空ミサイル迎撃システム、消防設備を確認しました。海上自衛隊では、水中処分隊の活動や船上での生活について学び、陸海空の食事を比較体験することで、基地生活の特徴を実感しました。これらの活動を通じて、インターンシップ生は多様な業務や役割に触れることができました。

- ②インターンシップ受入れの目的について

貴社・貴団体にとって高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる意義や目的を教えてください。

自衛隊が高等専修学校の生徒のインターンシップを受け入れる目的は、自衛隊の役割や業務内容を若年層に広く知ってもらうことです。少子化とキャリア選択肢の多様化が進む中、自衛隊の志願者数は減少しており、早い段階から興味を持ってもらうことが重要視されています。また、自衛隊が担う日本の防衛や平和維持の重要性を正しく伝えることで、職業としての魅力を感じてもらい、将来のキャリア選択の一つとして考えてもらうことを目指しています。

- ③高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

インターンシップがより高等専修学校の生徒の学びになるよう、何か工夫されていますか？

高等専修学校の生徒がインターンシップで実りある体験を得られるよう、自衛隊ではさまざまな工夫を凝らしたプログラムを提供しています。陸海空それぞれの多様な職域を紹介し、装備品の見学や救命救助のためのロープワーク、指紋鑑定などの専門的な活動を体験する機会を設けています。さらに、生徒に近い年齢の若手隊員との交流を通じて、職場の雰囲気や働きがいを直接感じてもらえるよう配慮しました。こうした取り組みによって、生徒が自衛隊についての理解を深め、将来を考える上での新たな視点を得ることが期待されています。

④安全面や配慮点について

高等専修学校の生徒インターンの安全確保や心のケアのために配慮していることはありますか？

インターンシップ中の安全を確保するため、自衛隊では細心の注意を払っています。沖縄の高温多湿な気候に対応し、給水管理や休憩の確保、冷所への移動を徹底しています。また、高所での活動や大型装備品の見学では、安全装備の使用や事前の詳細な説明を行い、リスクを最小限に抑えています。心理的な負担を軽減するため、隊員との交流や食事の場を設けることで、インターンシップ生がリラックスして過ごせる環境を整えました。

⑤受け入れ上の課題や困難について

高等専修学校の生徒インターンを受け入れる際、難しいと感じる点がありますか？

自衛隊の業務特性上、見学できる施設や職域が制限される場合があることが課題の一つです。また、訓練スケジュールとの調整が必要で、計画通りのプログラム実施が難しい場合があります。それでも、多様な職域や活動を可能な限り生徒に体験してもらえよう、最大限の工夫を施しています。

⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

インターン前の準備やマナー教育など、学校に対して期待するサポートがあれば教えてください。

高等専修学校側には、インターンシップをより効果的にするためのサポートを期待しています。見学や体験の際に役立つよう、事前に質問事項を準備してもらうことで、生徒の理解が深まります。また、インターン前にマナー教育や基本的なコミュニケーションスキルを養う指導を進めてほしいと考えています。さらに、参加生徒が自衛隊の活動に興味を持ち、主体的に取り組む意識を高められるよう、学校での目的意識の醸成も求められています。

## 9)ヒアリングシートで回答いただいた企業・団体

ヒアリング日程	令和6年11月14日～22日
ヒアリング企業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツデポ天久店</li> <li>・マクドナルド真嘉比古島店</li> <li>・北京堂鍼灸首里いじゅ治療院</li> <li>・株式会社ロワジール・ホテルズ沖縄</li> <li>・まほろば鍼灸接骨院</li> <li>・犬ワンダフル</li> <li>・ジスタス那覇</li> </ul>
ヒアリング方法	ヒアリングシート(Google フォーム等)での回答

### ②インターンシップ受け入れの目的について

#### 地域貢献と啓蒙活動:

地域社会への貢献を目的に、若者に新しい学びや体験を提供。スポーツクラブの楽しさや動物愛護の重要性を伝えるなど、業界特有の価値観を共有する場として位置づけている。

#### 人材発掘とリクルート:

優秀な生徒を発掘し、将来的な雇用に繋げる狙いも含まれる。これにより、企業の採用コスト削減や業務に適応した人材の確保を目指している。

#### 業界の魅力発信:

生徒に業界の現場での仕事の魅力を伝え、進路選択の一助とすることも重要視。

### ③高等専修学校の生徒にとって学びになるプログラム作り

#### 自発的な学びの促進:

生徒が自身で興味を見つけ、自主的に学べるよう、特定の作業に縛らない柔軟なプログラムを設計している。

#### 多様な体験の提供:

生徒が複数の現場を見学し、業務の多様性を理解することで、自身の適性や興味を見つけることを支援。

#### 成長につながるフィードバック:

プログラムの途中で生徒が行った活動について適切なフィードバックを行い、改善点やさらなる成長のポイントを提供。



#### ④安全面や配慮点について

##### 物理的安全の確保:

危険作業を排除し、常に安全な環境を維持することを徹底。特に動物を扱う現場では、動物との接触や設備に関する注意喚起が行われている。

##### 心理的サポート:

生徒が緊張せず楽しめるよう、フレンドリーな雰囲気を醸成。特に初対面の場面では配慮が必要とされている。

##### 感染症対策:

コロナ禍以降、衛生面での注意がさらに重視されており、生徒にもその重要性を伝える取り組みが行われている。

#### ⑤受け入れ上の課題や困難について

##### スタッフ配置の問題:

年間を通じてスタッフの退社や配置転換が発生し、生徒への十分な指導ができない場合がある。

##### 事前準備の負担:

小規模な事業者では、インターン受け入れに関わるスケジュール調整や準備が業務負担となる場合がある。

##### 生徒の意識のばらつき:

企業や業務内容に興味を持たず参加する生徒がいる場合、効果的なプログラム進行が困難になる。

#### ⑥高等専修学校側に求めるサポートについて

##### 事前教育の充実:

生徒が企業や業界に対する基礎知識を持って参加できるように、高等専修学校側での事前教育や準備を強化してほしい。

##### マナーや基本スキルの指導:

挨拶や基本的な社会人スキルを事前に指導し、現場での活動をスムーズにするための協力を要望。

##### 生徒の意識の確認:

参加する生徒がその企業に興味を持っているかどうか、意識の確認を高等専修学校側で行うことが求められている。

## ⑦インターン生に期待するスキルや態度

基本的なコミュニケーション能力:

挨拶や接客を通じて、社会での基本的なマナーやお客様とのコミュニケーションの重要性を学ぶことを期待。

柔軟性と積極性:

予めスキルを求めるよりも、学ぶ意欲や楽しむ姿勢を持つ生徒が歓迎されている。

## ⑧インターンシップ実施による成果

リクルート効果:

インターン経験が生徒の興味を引き、結果としてアルバイトや社員として採用されたケースがある。

お客様との関係性向上:

インターン生が現場で積極的に活動することで、お客様からの信頼や評価が高まる。

業務改善のヒント:

インターン生の視点から、業務フローや顧客対応についての新しいアイデアを得られる可能性も期待されている。

## ⑨今後のインターンシップ受入れに対する方針、考え

生徒の進路支援を重視:

インターンを通じて進路選択の幅を広げ、生徒自身のキャリア形成を支援することを方針としている。

より充実したプログラム作り:

生徒が「ここでインターンできて良かった」と感じられる体験を提供し、学校や地域に好影響を与える方針。

## 5. ヒアリング調査分析

### 1) 高等専修学校教員ヒアリング分析

#### ①職業教育の取り組み

高等専修学校教員は、段階的なキャリア教育プログラムを通じて、生徒の進路意識を向上させることを重視している。1年次には職業調べや専門学校見学を通じて生徒の視野を広げ、2年次には分野別授業体験を実施し、3年次には進路決定を支援するという体系的なアプローチが特徴的である。例えば、「職業調べを通じて興味のある職業や進学先について理解を深め、生徒のキャリア形成を支援している」という声があり、この取り組みが進路選択の重要なきっかけとなっていることが示されている。

学校ごとに特化した分野があり、KBC 高等学院では「生徒の興味や適性に合わせ、デジタル系とスポーツ系のクラス編成を行っている」。一方で、中央高等専修学校では「専門学校との連携授業を実施し、生徒が実際の授業を体験することで進路について具体的に考えられる機会を提供している」とのコメントがあった。これにより、生徒は将来の進路を現実的に考えるきっかけを得ている。

#### ②インターンシップの課題

インターンシップ未実施の学校では、受け入れ先の確保が最大の課題となっている。特に「地域企業や卒業生とのネットワークを活用し、受け入れ先の確保に取り組みたい」といった声が聞かれる。生徒の多様な希望に応じた受け入れ企業の拡大が求められている。また、インターンシップの意義を生徒が十分に理解していないケースも課題であり、「インターンシップへの消極的な態度を改善するために、事前教育を強化する必要がある」と指摘されている。

#### ③今後の方向性

今後の方向性としては、全教員が横断的に関与するインターンシッププログラムの導入を検討する必要がある。また、「卒業生や地域企業との連携を強化し、多様な業種での受け入れ体制を構築する」という具体的な目標が挙げられている。さらに、「マナー教育や基礎スキル指導を充実させ、生徒が社会に出る準備を整えることが必要である」との意見があり、実践的なキャリア教育の充実が期待されている。

## 2) インターンシップ受け入れ企業・団体ヒアリング分析

### ①受け入れの意義と目的

企業側はインターンシップ受け入れの意義として「地域貢献や若年層の人材育成、業界の魅力発信」を挙げている。ある企業は「インターンシップを通じて生徒が実社会を理解し、将来の進路を考えるきっかけを提供したい」と述べており、教育的な観点を重視している。また、「地域社会の活性化に貢献したい」という声もあり、インターンシップが地域と企業を結ぶ重要な機会として認識されている。

### ②安全面とプログラム設計

受け入れ企業は、生徒が安心して活動できるよう、安全確保と心理的負担軽減に配慮している。「業務内容を限定し、常に指導者が近くで見守る環境を整えた」という取り組みや、「アイスブレイクを通じて生徒の緊張を和らげる努力をしている」という具体的な事例が挙げられている。また、「プログラム設計において、目標設定や進捗確認のためのフィードバックセッションを実施する」という声があり、生徒が達成感を得られる環境を意識している企業も多い。

### ③課題と要望

短期間の受け入れでは、体験内容が限定されることが課題とされている。「業務を簡易化して提供しているが、本来の業務内容を十分に伝えられない」との意見があった。また、学校側には「事前にマナー教育や個人情報保護について指導してほしい」との要望が多く、生徒が現場で即戦力となるための準備が求められている。

### ④成功事例と成果

一部の企業では「インターンシップを通じて生徒が自己成長を実感し、職業観が形成された」という成功事例が報告されている。例えば、「生徒が自分の適性を理解し、将来の目標を具体化できた」との声がある。また、「生徒の活動が企業の信頼向上につながり、地域社会における企業の存在感を高めた」という成果も確認されている。

### 3)ヒアリング結果が示す課題と改善の方向性

#### ①高等専修学校の生徒と企業のマッチングの重要性

インターンシップにおいて、生徒と企業の適切なマッチングが成果に直結する。「生徒の特性や興味を理解し、それに基づいた受け入れ先を確保することが必要である」との意見があり、事前面談や調整を通じて、双方が納得できる形でプログラムを実施することが求められている。また、「事前に生徒の興味分野を把握し、それに応じた業務内容を準備することが、効果的なマッチングに繋がる」との具体的な指摘もあった。

#### ②Win-Win の関係構築

高等専修学校の生徒にとっては職業観の形成やスキル習得、企業にとっては若年層への業界認知向上や人材育成という、双方に利益をもたらすプログラム設計が必要である。「企業側の負担を軽減しつつ、効果的な支援体制を整える必要がある」との意見があり、学校と企業の連携を強化することが求められている。例えば、「学校側がインターンシップ終了後に企業からフィードバックを収集し、次のプログラム設計に活用することで、持続可能な Win-Win の関係を構築できる」との提案がある。

#### ③知識とスキルの事前準備

高等専修学校の生徒がインターンシップで成果を上げるためには、基本的なマナー教育、語彙力向上、コミュニケーション能力の育成が不可欠である。「個人情報保護や情報リテラシーについての指導も事前に行うべき」という声があり、学校が主導してこれらの準備を行うことで、インターンシップの質が向上し、生徒と企業双方の満足度が高まると考えられている。また、「インターンシップに向けた目標設定を事前に行い、明確にすることで、生徒が主体的に取り組む姿勢を醸成できる」という意見も聞かれる。

#### ④企業側の負担軽減

企業からは「インターン生への指導に多くの時間と労力がかかる」という声が挙げられた。この課題を解消するためには、指導担当者をサポートするガイドラインや標準的な研修プログラムを提供することが有効である。また、学校と企業の事前調整を通じて、指導内容や範囲をあらかじめ明確化することで、企業の負担を軽減し、スムーズな運営を実現できる。

#### ⑤成功事例の共有

「他の企業の成功事例を知ることで、受け入れプログラムを改善できる」との意見があり、成功事例の共有が重要視されている。例えば、インターンシップを通じて「生徒が職業観を明確にし、自信を持つようになった事例」や「企業側がインターン生から新しい視点を得た事例」を共有することで、参加企業全体のプログラムの質向上が期待される。こうした成功事例の公開や共有イベントの開催が、

より効果的なインターンシップの実現に繋がると考えられる。

# 付録:資料

## 1. アンケート調査票

### 1) 高等専修学校生徒向けアンケート

#### 高等専修学校生徒向けアンケート調査票

このアンケート調査は高等専修学校に通う皆さんに高等専修学校を知ったきっかけや入学を決めた理由、入学してからの学校生活、インターンシップについての考えを伺い、文部科学省委託事業「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築事業」に役立てたいと考えています。調査結果に基づき、高等専修学校の職業教育機能強化、学びのセーフティネット機能の充実、さらなる多様な学びを保障するモデルを構築していきます。

なお、アンケートを提出したくない場合はしなくても構いません。また、回答や提出をしなくても学校の成績や評価には一切影響しません。

回答時間の目安は10分程度です。

Web フォームからアンケートに回答いただける場合は  
左記の二次元バーコードよりアンケートにアクセスしてください。

【Web フォームアドレス】<https://forms.gle/TjQqckPqTdEpE2XR7>



- あなたの学校名を教えてください。  
( )
- あなたの学年を教えてください。  
( )年生
- 本校を知ったきっかけは何ですか？
  - 中学校の先生
  - 中学校からの情報提供(チラシなどを見て)
  - 親・家族
  - 友だち・先輩
  - インターネット・SNS
  - その他(具体的に)

4. 入学を決めた理由は何ですか？(複数回答可)

- a) 専門的な知識・技能を学びたかった
- b) 就職に有利だと思った
- c) 自分の興味に合っていた
- d) 少人数教育で自分に合っていると思った
- e) 学校の雰囲気や環境がよかった
- f) 通学スタイルがよかった
- g) 先生のサポートが手厚いと感じた
- h) きょうだいや友だち、知り合いが通っているから安心だった
- i) その他(具体的に)

--

5. 本校に入学してからの満足度を教えてください。

- a) とても満足
- b) まあまあ満足
- c) あまり満足していない
- d) 不満

6. 普通科目(国・数・英・理・社)の授業内容についてどう感じていますか？

- a) とても面白い
- b) まあまあ面白い
- c) あまり面白くない
- d) 全く面白くない

7. 専門科目の授業内容についてどう感じていますか？

- a) とても面白い
- b) まあまあ面白い
- c) あまり面白くない
- d) 全く面白くない

8. 友だちとの関係はどうですか？

- a) とても良い
- b) まあまあ良い
- c) あまり良くない
- d) 全く良くない



9. 学校の設備についてどう思いますか？

- a) とても良い
- b) まあまあ良い
- c) あまり良くない
- d) 全く良くない

10. インターンシップに参加したことはありますか？

- a) はい →質問 11. へ進む
- b) いいえ →質問 16. へ進む

インターンシップに参加した方にお伺いします。参加したことがない方は質問 15 に進んでください。

11. どのようなインターンシップに参加しましたか？

- a) ホテル・飲食サービス・販売関係
- b) 製造・ものづくり関係
- c) IT・プログラミング関係
- d) 保育・教育関係
- e) 医療・介護関係
- f) スポーツ関係(スポーツジム・ショップ、鍼灸院等)
- g) 官公庁(消防、自衛隊等)
- h) その他(自由記述)

12. インターンシップの実施日数はどのくらいでしたか？

- a) 1 日
- b) 2 日
- c) 3 日
- d) 4 日以上

13. インターンシップに参加して印象に残った経験や学びは何ですか？(複数回答可)

- a) チームでのプロジェクト経験
- b) 社員とのコミュニケーションの大切さ
- c) 実際の業務を体験できたこと
- d) 業界のリアルな雰囲気を感じられたこと
- e) 自分の興味が明確になったこと
- f) マナー、挨拶の重要性
- g) 業務の流れを理解できたこと
- h) 将来について考えるきっかけになったこと
- i) その他(自由記述)

14. インターンシップに参加する前に、どのような準備や学びが必要だと感じましたか？(複数回答可)

- a) 業界についての知識を深めること
- b) ビジネスマナーやコミュニケーションスキル
- c) 必要な専門技術や知識の習得
- d) 自己紹介文・自己PR文の作成
- e) 先生や先輩からのアドバイスを受けること
- f) 実際の業務に関連する知識習得や資格取得
- g) インターンシップ先の企業研究を行うこと
- h) その他(自由記述)

15. インターンシップ参加後、自分の進路に対する考え方がどのように変わりましたか？(複数回答可)

- a) 進路の方向性が明確になった
- b) 新たな興味や目標が見つかった
- c) 具体的な職業について考えるようになった
- d) 就職活動に対する不安が減った
- e) 異なる業界への興味が湧いた
- f) 専門性の重要性を実感した
- g) 自分の強みや弱みを理解できた
- h) 進学よりも就職を考えるようになった
- i) 特に変わらなかった
- j) その他(自由記述)

16. 本校に入学して良かったことはありますか。あれば記入してください。(自由記述)

17. 本校に入学して悪かったことはありますか。あれば記入してください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。

## 2) 沖縄県内中学校アンケート

### 沖縄県内中学校教員向けアンケート調査票

本調査は高等専修学校の認知度、課題、そして今後求められる役割について中学教員のご意見を伺い、文部科学省委託事業「地域に根ざした高等専修学校機能強化先導的モデル構築事業」に役立てたいと考えております。調査結果に基づき、高等専修学校の職業教育機能強化、学びのセーフティネット機能の充実、さらなる多様な学びを保障するモデルを構築してまいります。回答の目安時間は5～10分程度で、ご回答期限は11月8日(金)です。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アンケートにご回答いただく前に、高等専修学校についてご紹介させていただきます。

#### 【高等専修学校とは】

専修学校のうち、中学校卒業者を対象とした高等課程を設置する学校であり、柔軟な制度特性を活かした特色ある教育を展開しています。その教育内容は、実践的な職業教育であったり、特定分野でのスペシャリストを養成するもの、また、社会での自立に向けた個に応じた教育を行うものであるなど、後期中等教育段階における生徒の多様な学びを提供する場となっています。

#### 【高等専修学校の特徴】

##### 1. 専門技術・知識の習得

高等専修学校は実践的な教育を重視し、職業に直結するスキルや知識を学ぶことができます。技術系、商業系、福祉系など多彩な分野が用意されています。

##### 2. 即戦力となる資格取得

専門的な知識や資格取得が可能なため、卒業後は即戦力として企業から高く評価されることが多いです。

##### 3. 個別指導の充実

少人数制の授業や、実習を通じた学びを重視しており、生徒一人ひとりに対してきめ細かな指導を行います。

##### 4. 学びの柔軟性

高等専修学校は、職業教育と高校卒業資格を同時に取得できる制度を持っており、将来の進学や就職の選択肢が広がります。

##### 5. 多様な進路選択

高等専修学校での学びを生かし、さらに専門学校や大学へ進学する生徒も多く、職業に限らず学びの幅が広がります。

(裏面よりアンケートが開始されます。)

Web フォームによりアンケートにご回答いただける場合は  
左記の二次元バーコードよりアンケートにアクセスしてください。



<https://forms.gle/KuaumYcJz zx8DmwT7>

回答日	年 月 日
学校名	中学校
所在地	市・町・村
回答者	
回答者役職	

1. 高等専修学校についてご存知でしたか？

- よく知っていた
- ある程度知っていた
- 聞いたことがある程度
- 全く知らなかった

2. 高等専修学校の目的や特徴について理解していましたか？

- よく理解していた
- ある程度理解していた
- あまり理解していなかった
- 全く理解していなかった

3. 高等専修学校の進学先として、中学生に進路指導で推奨することはありますか？

- よく推奨する
- 時々推奨する
- あまり推奨しない
- 推奨したことがない

4. 高等専修学校が生徒にどのような教育やサポートを提供するべきだと思いますか？(複数選択可)

- 実践的な職業教育
- 資格取得の支援
- 社会人としての基礎力の向上
- 進学のための学力向上支援
- インターンシップや職場体験の機会提供
- キャリアカウンセリングや進路指導の強化
- 個別学習サポートや補習授業
- メンタルヘルスや生活支援の充実
- 特にない
- その他(自由記述)

(その他にチェックをされた方はご記入ください。)

5. 高等専修学校の魅力についてどのような点が挙げられますか？(複数選択可)

- 実践的な教育内容
- 多様な進路選択肢
- 小規模な学習環境
- 資格取得が可能
- 早期のキャリア形成支援
- 個別の指導やサポート体制
- 就職に直結するスキル習得
- 分からない
- その他(自由記述)

(その他にチェックをされた方はご記入ください。)

6. 高等専修学校に対する課題や改善すべき点があると感じますか？

感じる

(具体的な課題をお書きください。)

あまり感じない

分からない

7. 生徒や保護者から高等専修学校について質問や相談を受けることはありますか？

よくある

時々ある

ほとんどない

全くない

8. 中学校として、高等専修学校との連携や協力を強化することは重要だと思いますか？

非常に重要

重要

あまり重要ではない

不要だと感じる

9. 高等専修学校の進学を希望する生徒に対して、中学校としてどのような支援が必要だと考えますか？(複数選択可)

進路相談の充実

学校見学や説明会の開催

卒業生や在校生との交流の場の提供

特にない

その他(自由記述)

(その他にチェックをされた方にご記入ください。)

10. 高等専修学校に期待する役割や、今後の発展に対するご意見をお聞かせください。(自由記述)

ご協力ありがとうございました。



## 2. モデル検討委員会議事録

### 1) 第1回モデル検討委員会議事録

文部科学省事業 令和6年度「高等専修学校における多様な学びを保障する先導的研修事業」 第1回 モデル検討委員会 議事録	
開催日時	2024年10月24日(木) 15:00~17:00
会場並びに 開催方法	KBC高等学院 東町校舎 401教室
出席者	(モデル検討委員) ・一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会 事務局長 石原 啓 ・子ども若者みらい相談プラザ sorae 統括責任者 特定非営利活動法人サポートセンターゆめさき臨床心理士 松本 大進 ・福祉型ワークスクール zerostep 代表社員 近藤 賢宏 ・株式会社 モビイクス 執行役員 小林 康裕 管理部(採用担当) 平松 将 ・学校法人有坂中央学園中央高等専修学校 前橋校 副校長 藤井 智人 ・学校法人KBC学園 KBC高等学院 教務部長 伊佐 尚子 主任 宮野 学 山本 千穂 事務局 崎山 昌美 ・学校法人KBC学園 地域創生室 支援部 部長 國仲 陵太郎 課長 知念 仁志 大城 莉恵子 當間 律子 伊禮 嘉本 東 知範 仲宗根 真 (オブザーバー) ・学校法人KBC学園 KBC高等学院 校長 前新 健 (教材開発) ・株式会社 穴吹カレッジサービス 森内 周公 中村 多恵 神田 彩恵 (議事録作成) ・学校法人KBC学園 地域創生室 仲宗根 真

議 題	<p>議 事</p> <p>議題 1 令和 6 年度 事業計画書説明</p> <p>議題 2 事業実施にあたっての意見交換</p>
配布資料	<p>配布資料</p> <p>資料① 2024 年度学び保障_モデル検討委員名簿</p> <p>資料② 学び保障_事業計画</p>
会議概要	<p>前新の挨拶後、仲宗根よりスケジュール、配布資料の確認をし、委員より挨拶を頂戴した。議題 1 にて仲宗根より令和 6 年度の事業計画を説明。議題 2 では伊佐より K B C 高等学院の現状、松本氏より困難を有する子ども・若者の現状、課題を報告してもらった。その後、事業実施にあたり委員と意見交換を行った。最後に委員より感想等を承り、仲宗根より今後の予定を確認。伊佐よりお礼を述べて終了。</p>
目 次	<p><b>議題 1：令和 6 年度 事業計画書説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲宗根より PP と資料②を使い説明</li> </ul> <p><u>質疑・応答等</u></p> <p>(松本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案になるが、専修学校の P R をしたいと沖縄県総務私学課から教育事務所を管轄している義務教育課に声をかけてもらってはどうか。教育事務所管轄が県内に 3～4 か所あり、教育相談や生徒指導担当の先生たちに対する必修の研修や連絡会がある。5～10 分でも来年度の年度計画に入れてもらえれば非常に P R になると思う。どこを狙い専修学校を P R したらよいか、教育事務所の連絡会を活用させてもらえないかと言えば分かると思う。</li> <li>・適応指導教室でもよいと思うが、基本的に学校が管轄して生徒指導と教育相談の先生がグリップしている。各教育委員会を P R 先としながらトップダウンで教育事務所から P R をかけることも検討してもいいかと思った。</li> <li>・インターンシップにおいて先生方のカウンセリング力が大事である点は、もっともである。メンタルや発達の問題は企業側も同じことを抱えていると思う。インターンシップの入口で何かがうまく行かず進まなかったり、中退してしまうこともある。我々の団体に厚労省のサポートステーション事業があり、若者向けのインターンシップ事業でも先行して取り組んでいるものがある。何か協力できることがあるかもしれない。</li> <li>・障がいを持つ若い子たちの就労体験やスモールステップはゼロステップ(近藤委員)もよく知っていると思う。進め方や連携・連動する企画があるとより充実すると思う。</li> </ul> <p>(近藤委員)</p>

・本来は企業や団体に出向き、就労体験の期間を年に数回組むと思うが、マッチングしなかったり、うまく参加できず学校へ戻る生徒が一部いる。だが段階的に経験を積みたいという本人の希望から私たちのような障がい福祉サービス事務所に来たり、生活リズムの改善といった点で経験や体験を増やし自信をつける、段階を積む場として利用する方が実際いる。1日来てすぐ企業へ行く子もいれば、2週間来て、その後1週間は企業など多様で個人に合った対応ができています。インターンシップ関連のプログラム構築で手段の1つとして考えることができると思う。

## 議題2：事業実施にあたっての意見交換

- ・伊佐よりKBC高等学院の現状を報告
- ・松本氏よりPPを使い沖縄県における困難を有する子ども・若者の現状、課題を報告

### 質疑・応答等

(藤井委員)

- ・群馬県も保守的で保護者や中学校の先生方も進路を決める際はまずは公立高校を考え、難しいならば私立を併願。私立高校も難しいなら通信制高校、高等専修学校、サポート校を選ぶような状況。コロナが明けてから、学校は毎日登校しなくても子供たちが生き生きとしているらしい、と少しずつ変わってきている。群馬県にもいろいろな通信制高校があり募集はうまくいっていなかったが大分持ち直し、うまく集まる状況になってきた。
- ・中央高等専修学校は、クラーク記念国際高等学校と連携している。パンフレットや中学校訪問ではクラーク高校との連携校で卒業証書が出ることを先生や保護者に伝えないと、安心して生徒を送ってもらえない状況がまだある。
- ・全日制のKBC高等学院と違い、本校はクラーク高校と高等専修学校も通信制という形式。群馬県は通信制過程を持つには全日制過程を設置しなければいけないので、本校の全日制過程は在籍者がゼロ。全員が通信制過程に在籍している。理由はスクーリング日数の少なさ。全日制の高等専修学校では年間800時間以上の授業を受ける必要がある。通信制高校は進級できるが、高等専修学校の単位が取れないという矛盾が生じてしまうためこのような処置をとっている。
- ・以前はやんちゃな生徒も多い学校であったが、現在は不登校や中学時に安定して登校できなかった生徒が7割。勉強を苦手としている割合が2割、その他が1割。個性豊かな生徒たちが登校している学校。多くが一般的な学校生活の経験がないので、高校3年間で今までできなかった

ことを色々と学び、体験・挑戦してもらいたい。

- ・現在インターンシップは未実施であるが、今後は導入しなければいけない段階。まずは学校に来て人間関係を構築し、多くの事にチャレンジして自信をつけて就職、進学といった形式で現在は取り組んでいる。

(仲宗根)

- ・群馬県内でも御校のような特色ある学校の認知は進んでいるのか？

(藤井)

- ・中学校訪問では通信制高校と違い、当校は通信制ではあるが毎日登校する全日制高校と同じ生活が送れる。通信制高校は非常勤講師が多いなか、ほぼ全員が教員免許を持ち常勤で教科が持てる。少数精鋭できめ細かい支援ができることを専修学校の説明にプラスして本校の良い面をアピールしている。

- ・今までは我々が授業の合間に適応指導教室や中学校を訪問していたが、一昨年から小中での校長、教育委員会での経験がある現職の校長に来てもらった。その方がいると必ず校長室でじっくり話を聞いてもらえる。また校長会で説明する場を設けてもらえたりと今までと違う募集活動ができた。認知度が上がったかはわからないが、オープンスクールなどの数が増えてきている状況。

(石原委員)

- ・メインは高校生であるが、県内にも高等専修学校があるので一部は中学生もターゲットになる。中学校でのインターンシップはほとんどが保護者の職場で行う状況。世の中にどのような仕事があるのか、進学の際にどの学校を選ぶことがよいのか、なかなかわからない部分がある。県内では以前から普通科志望といわれるが、とりあえず行っておこうという状況が続いている。将来の職業はどうしたいか、そのためにはどの高校を選んだ方がよいかをもっと中学時に知ってほしい。

- ・沖専各では昨年度から中学校へ専門学校先生方が職業について話をする講話をPRしている。学校のPRではなく、この仕事に就くためには何を学ばよいかを中学生に周知してほしいと担当には話している。中学校でアンケートを実施してもらい、その職種にあった職員を派遣する方式。一講座20名程度になるよう分けている。熱心に聞く生徒もいるが、友達と一緒に聞きたい程度で、実際の話を進めるとポカンとしている生徒もいる。とにかくすそ野を広げ、仕事の種類やこの仕事に就くには何を学ばよいかを広げていきたい。

- ・中学時から職業について考え、職業のためにはどの進学先にするか。その1つに高等専修学校がある。普通高校と違い技術を学ぶことが大前提なので、そこをPRしながら今後も進めたい。昨年度は1校であったが、今年度は6校で実施予定。すでに2校は終了。実施校を増やすと専

門学校教員の負担が大きくなるので、実施校や対象地域の制限も含めて検討している。教育事務所や義務教育課、総務私学課の協力も得ながらこの事業を進め中学校へアプローチしたいと考えている。

(仲宗根)

・プログラムでも中学校から評価がある点を参考にしたいと思うが、そのような所が評価されているのか。

(石原)

・中学校のインターンシップはPTA（保護者）への声かけで実施している。専修学校から職業について話をする企画はしているので先生方は事務作業量の軽減などは助かっている。また講話だけでなく、実習もしている。生徒たちは身体を動かすことで生き生きし、自身の気づきになる部分もある。そういった点で評価をもらっている。

(近藤委員)

・当事業所は18歳以上が利用対象だが、15～17歳の子どもも進学や就職の間にステップを踏む場として短期間利用する場にもなっている。これから働くことを考えたうえで対応するが、高校卒業直後や、職業経験がない方、ほとんど学校へ通えていない方など経験や知識の習得が少ない方も多い。当社の場合、ソーシャルスキルに関係するコミュニケーション力をつける練習に合わせてジョブスキルなど仕事に関して知ってもらい、その次に企業見学やインターンシップに近い体験型プログラムに参加して就職にマッチングしていく。

・一般企業の障がい者枠の採用の方には、自身の障がいをオープンにする人もいれば採用担当以外には伏せたいという方もいるのでそれぞれに合ったキャリア支援が必要。当社には職場適応援助者(ジョブコーチ)資格を持ったスタッフがいるので、企業に了解を得て就労先と本人に定着できるよう支援をしている。就職前の段階、トレーニングやプログラム、就職のマッチング、就職後の定着といった点で、企業、本人にどのような支援ができるかなど情報提供できると思う。

・松本委員のサポートセンターや若者サポートステーションとも連携があり、本人の状態に応じたサポートや提案ができています。本人の希望でスタートするが、通院や服薬で生活リズムや体調を整えている方もいる。体調管理など生活支援も同時に行っている実態もある。そういった情報の提供ができればと思っている。

(仲宗根)

・貴事業所の対象は18歳以上ではあるが、高校や高等専修学校との連携状況について教えてほしい。

(近藤)

・企業に代わるインターンシップ、就労体験先としてのニーズ、本人の

希望に不安のある保護者や高校の先生からの紹介はあるが、直接学校へ出向くことは広くやっていない。横で情報がつながって来ている方もいる。

(小林委員)

・当社を就職先として選択してもらうためインターンシップの対象は大学生が前提だが、昨年から短期間で高校生も受け入れている。まだ何をやりたいか決まっていない生徒も多いので、体験を通じて社会を知り、仕事をしてみたいと思うヒントになればいい感覚。インターンシップに行ったら知らない業界を知り、自分のやりたい仕事を見つけて、それに合った進学先を選ぶ判断を先生や親と一緒にできればよいと思う。

・アンケートの話があったが、進学には親の影響が一番大きいと思う。親が子どもの進学先に対し何を求めているかアンケートを実施してはどうか。おそらく、この学校に入学した場合の進学先や就職先がどこかが回答になると思うが、そこをインターンシップと掛け合わせて自分の進路や最終的な着地点である就職、どのような仕事がしたいかなどを見つけるヒントになればと思い高校生に対してやっている。

(平松委員)

・大学生は基本的に就職活動をスタートした人たちがメイン。例えば今年の夏にデザイナーを目指している人に対し、我々がお客の立場でインターンシップ参加者へデザインの依頼をした。早期退職やメンタルヘルスにもつながる理想と現実のギャップを無くし、お客さんとどういったやり取りがあるのかを実務に近い体験でプログラムを組んだ。高校生には実際に働く社員から働くマインドややりがい、しんどさなど職業を選ぶにあたってのヒント、働く理由などをディスカッションしながらお互いに考えていく内容や課題解決型のディスカッションを入れている。マインドセットや業界を見せる形式のプログラムを組んでいる。

(仲宗根)

・社内にインターンシップ受入れに関するプログラムはあるのか？

(平松)

・実際に仕組み化まではできていない。社員も少ないので、私が比較的内容に沿って話してくれそうな素直な社員を選んでいる。また受け入れとは別の大学生インターン生に社員と一緒に考えたこともある。就職活動をしている人たちの話も交えながら進めようと思っている。アサインの方法などは固まっていないが、うまくいくように色々考えながら進めているところ。

(小林)

・トライ式高等学院は専修学校なのか？

(伊佐)

・通信制高校である

(小林)

・TV、ネット、SNSなどでよく宣伝している。認知度を上げてくれていると思うが、通信制なのか、全日制なのか、高等専修学校なのかわからない。高等専修学校の定義を世間に知ってもらうことが初めに必要だと思った。

#### 本日の感想

(藤井)

・企業やNPO法人など学校関係以外の意見が聞けた点がよかった。高等専修学校が認知されていない点はその都道府県でも同じだと思う。高等専修学校の特色をいかにアピールできるような持っていきか、いろいろ学ばせてもらい進めていきたいと思う。

(石原)

・高等専修学校は実は歴史が古い。最近はその都道府県外の広域性通信制高校が言い方は良くないが、支店のようにどんどん増えて生徒募集をしている。高等専修学校の強みや不登校といった子たちとのつながりなどもPRしながら進められるとよいと思う。

(松本)

・子どもたちが頑張って中学を卒業し、進路を決めていく。そこで素敵な選択肢になればいい。全日制高校に進学しミスマッチを起こす子が一定数いて、中退率も高い。この部分で分析やヒヤリングをするとよいと思う。勉強で成果を上げるタイプが行く高校、勉強は苦手だが仲間とワイワイ過ごしたいタイプが多い高校があるなか、勉強が苦手なワイワイ過ごすタイプでない子が全日制高校でミスマッチを起こしてしまうケースが結構ある。その可能性がある子を持つ保護者や先生方へ訴求する際に「ドンっ」と入って来るキーワードがあると、若い子たちの良い選択肢になると思った。

(近藤)

・今年、高1年になった娘がいる。中3の今頃には通信制や私立高校に進学を決めていた子もいた。娘の友人にも教室に入れない子や、学校にも行けなかった子がいたが、通信制高校に進学して目に見えて変わった子を何人か見た。やりたいことが出来て、先生方の理解やサポート視点での声掛けなど特に両親が喜んで話を聞く。中にはアルバイトや好きな仲間が集まったサークルを始めた子の話や新しい目標を見つけ、早く働いて両親に楽しませたいと言うことに感心した。この半年で大分変わったと思った。これは一部の話で、このような事例はあると思うので社会に広く発信して知ってもらいたい。本日もさまざまな情報が聞けた。こ

れらも併せて発信され、悩んでいる方が中身を重視して選び安心して進学を決める形式になったらよい。そういった点でも協力できればと思う。

(小林)

・今も昔も勉強が好きな子は多分いないと思う。自身もそうだった。全教科が好きで勉強している人はいないが、自分の好きなことが見つければとことん追求できるのが高等専修学校の良さだと思う。いいところだけだと思うが、親の理解が無いと「学校?」「専門学校?」となってしまうので一人でも多く選択肢として選んでもらうには、理解してもらうことが大事。今後の委員会を通じ少しでもお役に立てればと思う。

(平松)

・教員を志望していた時期があり、前職は塾講師だった。将来に悩む中学生に授業もしており、いろいろな話を聞いた。現在は選択肢を与え、きっかけを見せる立場にいたりと思っている。来月のインターンシップでもしっかりと取り組ませてもらい、他に協力できることがあれば全力でやらせてもらいたい。

・今後の予定について (仲宗根)

第2回 モデル検討委員会

日程：2025年1月24日(金) 15:00~17:00

会場：KBC高等学院 東町校舎

その他：本日の参加お礼 (伊佐)

以上 委員会を終了する。



## 2) 第 2 回モデル検討委員会議事録

文部科学省事業 令和 6 年度「高等専修学校における多様な学びを保障する先導的研修事業」 第 2 回 モデル検討委員会 議事録	
開催日時	2025 年 1 月 24 日（金） 15：00～17：00
会場並びに 開催方法	ビューティーモードカレッジ 6 階 604 教室 及び一部オンライン
出席者	（モデル検討委員） ・沖縄県総務部 総務私学課 私学・法人班 班長 中村 孝一 ・一般社団法人 沖縄県専修学校各種学校協会 事務局長 石原 啓 ・子ども若者みらい相談プラザ sorae 統括責任者 特定非営利活動法人サポートセンターゆめさき 臨床心理士 松本 大進 ・福祉型ワークスクール zerostep 代表社員 近藤 賢宏 ・株式会社 モビイクス 管理部（採用担当） 平松 将 ・学校法人 有坂中央学園 中央高等専修学校 前橋校 副校長 藤井 智人 ・Shikens（シーケンス） 代表 下地 健司 ・一般社団法人 ツナグミライ 代表理事 堂本 尚吾 ・学校法人 K B C 学園 K B C 高等学院 教務部長 伊佐 尚子 主任 宮野 学 山本 千穂 事務局 崎山 昌美 ・学校法人 K B C 学園 地域創生室 支援部 部長 國仲 陵太郎 課長 知念 仁志 仲宗根 真 大城 莉恵子 當間 律子 伊禮 嘉本 東 知範 （教材開発） ・株式会社 穴吹カレッジサービス 中村 多恵 （議事録作成） ・学校法人 K B C 学園 地域創生室 仲宗根 真
議 題	議 事 議題 1 令和 6 年度 事業調査分析報告 議題 2 令和 7 年度 事業実施に伴うアウトプットについて
配布資料	配布資料 資料① 高等専修学校機能強化先導的モデル構築 調査分析報告書 資料② 事業実施に伴うアウトプット

<p>会議概要</p>	<p>伊佐の挨拶後、仲宗根よりスケジュール、配布資料を確認。中村（孝）、下地、堂本委員を紹介した。議題1にて資料1を使い中村氏より令和6年度事業調査分析を報告し、委員より質疑応答を受けた。議題2では仲宗根より令和7年度事業実施に伴うアウトプットについて説明。その後、委員と意見交換を行った。最後に委員より感想等を承り、仲宗根より今後の予定を確認。伊佐よりお礼を述べて終了。</p>
<p>目次</p>	<p><b>議題1：令和6年度事業調査分析報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中村（多）氏より資料①を使いアンケート結果とヒアリング調査について報告</li> <li>・伊佐よりインターンシップの様子を報告</li> <li>・宮野よりデジタルマーケティングの授業について説明</li> </ul> <p><u>質疑・応答等</u></p> <p>（中村（孝）委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の議事録で教育事務所と連携して高等専修学校のPRができないか、という意見があった。高等専修学校は高等専門学校と間違えられることが多いので周知が必要だと思う。義務教育課とも相談して高等専修学校のPRについて前向きに検討しているので方法について相談させてほしい。</li> </ul> <p>（松本委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な分析で生徒の実態や中学校教諭の考えが見える充実した内容であった。</li> <li>・他校との比較や、どの部分に力を入れるかなどを考える際にも入学者の不登校歴など背景に関するデータがあると良いと思った。</li> </ul> <p>（伊佐）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校だとスポーツコースの生徒は比較的メンタルが強い。障がいに関してはグレーゾーン。デジタルクリエイションコースには不登校や引きこもりだった生徒が毎年一定数入学してくる。</li> </ul> <p>（松本）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてではないが、福祉の分野で自立することができる若者も一定数いる。グレーゾーンは程度の基準や判断が難しい。背景に関するデータがあると先生方も一緒に学ぶことが出来ると思う。</li> </ul> <p><u>インターンシップ受入の感想</u></p> <p>（平松委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にコミュニケーションや自己主張が苦手であることを聞いていた。初日に壁を乗り越えるための取り組みを行ったが、結果として作業をしている時の方がコミュニケーションもとれた。2名を受け入れたが1名が質問すると、もう一方もどんどん質問をしてくるようになった。</li> </ul>

・社会人の仕事に対する考えを伝えることが一番のミッションであると思った。やりたいことをやるためには、やりたくないことも行うといった意識を変えていくことが大事だという話をした。

・あえて助けないこともした。高校生の受入は初めてだったので試行錯誤しながらやってみた。他の企業に対するアンケート結果も参考にして次年度以降も続けたい。

(堂本委員)

・サッカー部3名を受け入れた。初日はうるま市のスポーツ推進委員と連携し、高齢者を対象にノルディックウォーキングを行った。初めは緊張していたが、高齢者の方がたくさん話しかけてくるので一気に緊張がほぐれていた。作業だけではなくコミュニケーションを重視し、メンバーの1人として仕事をお願いした。

・課題に対し、どう事業化していくか。といった実態を知ってもらうため私が持つラジオ番組に出演してもらった。逆に彼らがTikTokをどのように運用しているか教えてもらった。社会的な変化の中、私たちが考える働き方だけでなく、彼らが求める働き方についてヒアリングさせてもらった。

・次年度以降も多くの事を事業化し、高校生がもっと多様な職業体験を通じて職業観や勤労観が持てる内容にしたいと感じた。

(松本)

・生徒たちの興味関心からずれるかもしれないが、一次産業や二次産業に関わるインターンシップ先も準備してもよいと思う。コミュニケーションを取ることが難しい場合、興味関心のある三次産業にもトライしながら、一次や二次産業で成功体験があれば違うところで自身を活かせることに気づききっかけになるかもしれない。先生方にとってもいろいろな指導のヒントになると思う。

・発達障害に関する診断は社会が作っている部分もある。一次、二次産業が主体の時はそういった子たちの活躍できる場があった。

(仲宗根)

・一次、二次産業企業とのマッチングについて事例があれば教えてほしい

(近藤委員)

・マッチングの段階から支援の事例はないが、結果的に繋がる子が一定数いる。福祉サービスの訓練と似ていると思った。コミュニケーションというと、何もない所から雑談などの話ができるといったイメージを持つ子が多い。訓練を通じて身につけてほしいコミュニケーションは仕事をする中で必要な質問、確認、報告をすること。これを始めに知っても

らう。

・接客業など三次産業では状況に応じた判断が必要だが、一次や二次産業は内容が明確。やることの指示や報告などコミュニケーションがとれる。これなら自分でもできる、という手応えを体感し訓練がスムーズに進んでいく。このような配慮の必要な生徒に対するプログラムは協力できる。

(藤井委員)

・本校に入学する生徒の7～8割が不登校で安定して登校できていなかった。高校3年間でインターンシップの経験は難しい。最近では可能な生徒も増えてきたので導入したい。

・資格取得で自信がついた、興味のある科目を見つけたなどの理由で約7割が進学を希望。卒業後すぐに就職が難しい場合は就労支援センターで訓練を受け就労につなげることもあるが、なかなかインターンシップまで実施できない状況。

・グループ校の専門課程と連携し、職業やキャリア教育の授業やボランティア活動を通じて多くの事を経験させている。農業体験では種付けから収穫まで行い、保護者や近隣の方を収穫祭に招いた。

・アルバイトを通じて仕事の楽しさを知り、就職を希望する生徒も多い。お金を貰うのでインターンシップより厳しいこともあるが、非常に社会勉強になる。

(石原委員)

・インターンシップ受入先には高等専修学校の生徒である点は理解してもらっているのか。例えば普通高校と専門高校ではインターンシップに対してちょっと違いがあると思う。高等専修学校の認識を広めるには、受入れ先にも生徒たちの学ぶ内容を知ってもらうことが必要だと感じた。

・資料では「高等専修学校生」でなく「高校生」と表記している。これで良いのだろうかとも感じる。まったく区別ができないと思った。

(伊佐)

・受入れを依頼する時、コース別の分野を専門的に学んでいる学校と説明している。

(仲宗根)

・指摘のあった点に関しては検討・修正を行いたい。

## 議題2：令和7年度 事業実施に伴うアウトプットについて

・仲宗根より資料②を使い報告

質疑・応答等

(松本)

・現実的に難しい部分ではあるが、セーフティネット機能向上の充実という点で人材育成に関する客観的な評価基準があると良いと考えているがなかなか難しい。

(仲宗根)

・本校の現場で起きた事例をベースとして落とし込んで、客観的な評価にもトライしていきたい。松本委員からもアドバイスを頂きたいと思う。

(中村(孝))

・リーフレットのイメージを教えてほしい。またそのリーフレットを使って私が義務教育課と話をしている公立学校関係者へのPRを行う流れでよいか。

(仲宗根)

・リーフレットは、高校との違い、特色ある授業といった基本的な情報や、高等専修学校の存在、強みなどが提供できる内容を検討している。PRできる場があれば、ぜひ呼んでほしい。

#### 感想等

(藤井)

・群馬県にある高等専修学校は2校で、中学生や保護者に向けたリーフレットもない。認知を進めるためにも一緒に制作しPRすることができればと考えている。

・認知度を高めるため、本校では中学校を退職した元校長に学校長や校長代理として様々な場に出向いてもらい一軒ずつ丁寧に説明している。このようなリーフレットがあると助かる。

(松本)

・高等専修学校と一般の企業、中高教員の連携が波及して増えていくと良いと思う。

(中村(孝))

・高等専修学校の強みは、様々な職業に繋がる実践教育と、就職・進学といった卒業後の柔軟なキャリアパス形成が可能であることだと思う。そういった点もPRできれば良いと思う。

(石原)

・リーフレットは印刷物だけでなく、HPにも掲載すると思う。多くの場で高等専修学校の意義が広まれば良いと思う。

(下地委員)

・学校パンフレット制作で関わる中、子どもたち1人ひとりが力を持っていると肌で感じる。この魅力を社会に伝えられる手伝いが出来ればと

思う。

(堂本)

・過去に教員の経験がある。学校は未だ地域に開かれていない部分があると感じる。企業や教育委員会などの連携を通じて開かれていくと思う。中高生はさまざまな選択肢があることをまだ知らない。情報をしっかりと伝え、生徒自身が高等専修学校も選択できると良いと感じた。

(近藤)

・デジタルマーケティングで制作したパッケージデザインを見ても、自身のデザインを形にすることが好きな生徒が多いと感じた。専門分野の学習や実習、実践が職業教育の魅力。インターンシップ等を通じて刺激を受け、生活や学習面の意欲に変わる部分がある。

・配慮が必要な方に対する地域とのセーフティネット機能の事例もすでにある。こういった点を言葉や映像にして認知度の向上に繋がるよう協力できればと思う。

(平松)

・インターンシップに関し、他企業の取り組みを知ることが出来た。次年度以降も続けたい。高校・大学生に関わらず社会は早期から見ておいた方が良く思う。今後も一緒に取り組みたい。

・SNSマーケティングに関する事業も行っているため、認知向上に関して協力できると思う

・今後の予定について (仲宗根)

令和7年度 モデル検討委員会 開催予定

(第1回委員会) 2025年7月4日(金) 15:00~17:00

(第2回委員会) 2025年11月7日(金) 15:00~17:00

(第3回委員会) 2026年2月6日(金) 15:00~17:00

会場: KBC高等学院 東町校舎

その他: 本日の参加お礼 (伊佐)

以上 委員会を終了する。